

# 木島平村学校施設等長寿命化計画

令和 3（2021）年 8 月

木島平村教育委員会



# 木島平村学校施設等長寿命化計画

計画期間

令和3（2021）年度 ～ 令和18（2036）年度

# 目 次

---

第 1 章 学校施設等の長寿命化計画の背景・目的等	1
1 計画の背景	1
2 計画の目的	2
3 計画の位置づけ	2
4 計画期間	3
5 対象施設	3
第 2 章 学校施設の目指すべき姿	4
第 3 章 学校施設等の実態	5
1 本村における人口の動向	5
(1) 人口・世帯数の推移	5
(2) 将来人口	6
2 学校施設等の運営状況・活用状況等の実態	7
(1) 児童・生徒数の推移	7
(2) 学校施設等位置図	8
(3) 学校施設等の保有量	9
(4) 学校施設等の保有状況	10
(5) 学校施設等関連経費の推移と修繕履歴	11
3 今後の維持・更新コスト（従来型）	14
4 学校施設等の老朽化状況の実態	15
(1) 構造躯体の健全性の把握と評価方法	15
(2) 劣化状況の評価方法	16
(3) 調査方法	17
(4) 劣化状況調査結果	20
第 4 章 学校施設等整備の基本的な方針等	21
1 学校施設の規模・配置計画等の方針	21
2 長寿命化計画の基本的な方針	22
3 改修等の基本的な方針	23
4 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）	24
5 目標耐用年数の設定	25
6 更新周期	26
7 今後の方向性の定義	27

第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	28
1 改修等の整備水準	28
2 維持管理の項目・手法等	30
第6章 長寿命化の実施計画	32
1 長寿命化の実施計画（中・長期計画）について	32
2 優先順位の考え方	32
3 学校施設等の個別施設計画表	34
4 個別施設計画表	35
(1) 木島平小学校	36
(2) 木島平中学校	38
(3) 学校給食センター	40
(4) おひさま保育園	42
5 今後の維持・更新コスト（中・長期計画）	44
第7章 長寿命化計画の継続的運用	45
1 情報基盤の整備と活用	45
2 財源の確保	46
3 推進体制等の整備	46
4 フォローアップの実施方針	46



## 第1章 学校施設等の長寿命化計画の背景・目的等

### 1 計画の背景

木島平村（以下「本村」という。）の学校教育系施設は、木島平小学校、木島平中学校、学校給食センターの3施設、子育て支援系施設としておひさま保育園があります。

小学校は平成6（1994）年、平成21（2009）年に建築され、中学校は昭和54（1979）年～昭和57（1982）年に、給食センターは昭和63（1988）年に建築されました。保育園は平成23（2011）年に建築され、9年が経過しています。

中学校の建物のほとんどが旧耐震基準で建築されており、主たる用途の校舎や屋内運動場は耐震補強を行っていますが、建物や設備等の老朽化に伴い維持管理、更新等には膨大な経費が必要になると予想されます。

一方、財政面では、人口減少による税収の伸び悩み、少子高齢化社会の進展に伴う扶助費等経費の増大などによる財政状態の悪化が見込まれています。

国においても施設の老朽化は喫緊の課題と位置づけ、平成25（2013）年11月に「インフラ長寿命化基本計画」を定め、国民の安全安心を確保し、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方針が示されました。

これを踏まえ文部科学省は、平成27（2015）年3月「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定しました。

本村においては、平成29（2017）年3月に「木島平村公共施設等総合管理計画（以下「総合管理計画」という。）」を策定し、基本方針及び目標を定めました。

これらの指針を基に、学校施設等の長寿命化\*<sup>1</sup>計画を立て、可能な限り良好な状態で長期間利用し、施設整備にかかるコストを抑制することにより、中長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図り、学校施設等の機能を確保することが求められています。

また、学校施設等の整備にあたっては、単に劣化した建築物や設備を改修するだけでなく、その機能や性能を時代の要請に合った水準まで引き上げ、安全安心な施設環境の確保、教育環境の質的向上、多目的利用等を目指して再生を行うことも求められています。

\*<sup>1</sup> 長寿命化：計画的な保全（修繕や改修）を実施することにより、建物の構造的・機能的な寿命（耐震）を延ばすことに加え、建物の機能や性能を現在の学校が求められている水準まで引き上げる改修を行うこと。

## 2 計画の目的

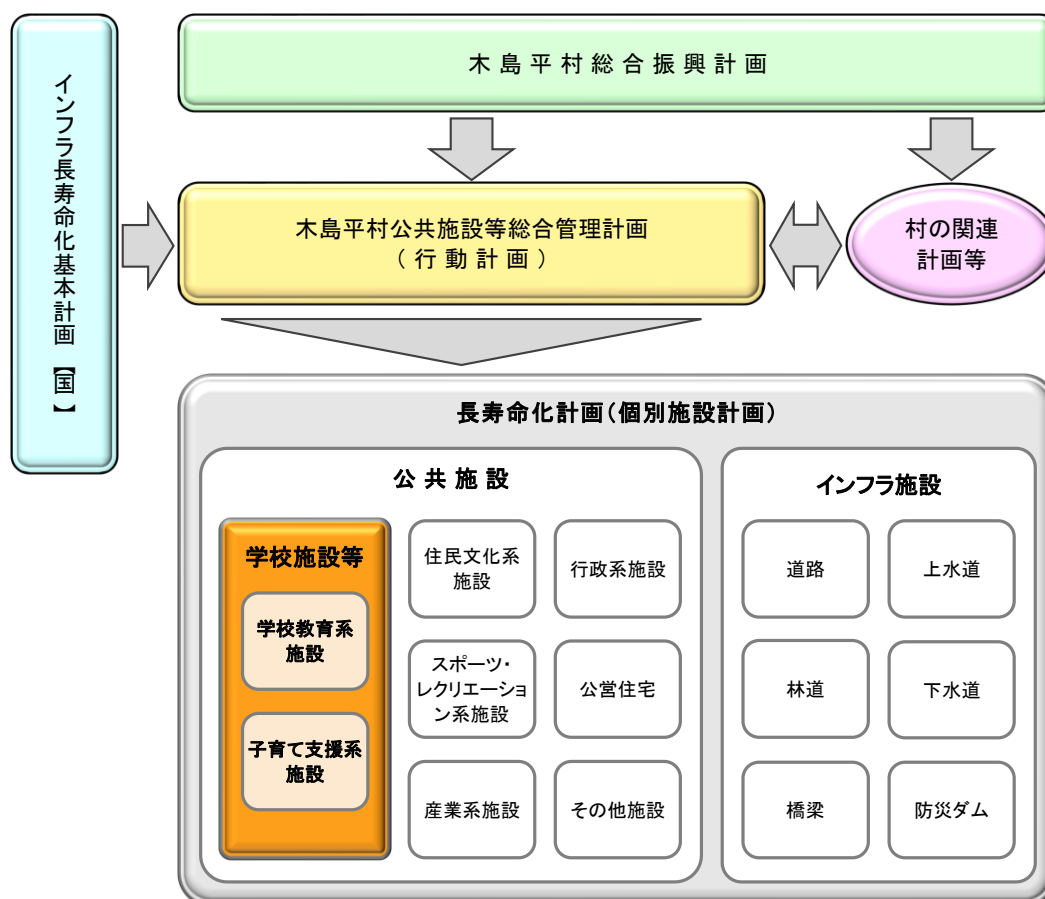
「木島平村学校施設等長寿命化計画（以下「本計画」という。）」は、計画の背景を踏まえて、現状の把握・分析に基づき、教育環境の質的改善も考慮しながら、今後の学校施設等整備の具体的な計画を検討します。

現地調査を踏まえた劣化診断による劣化度等の評価を行い、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を勘案した長寿命化計画を策定することを目的とします。長寿命化計画では、これまでの「事後保全」から「計画保全」へと維持管理の手法を転換し、施設の機能を常に良好な状態に保つことが重要となります。

## 3 計画の位置づけ

本計画は、国において公共施設等の老朽化対策として決定された「インフラ長寿命化基本計画」に基づいて策定した総合管理計画において定めた公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針を実現するための計画であり、学校教育系施設等も個別施設計画として位置づけられます。

◆図表 1-1 本計画の位置づけ



## 4 計画期間

本計画の計画期間は、上位計画である総合管理計画等と連動しながら、概ね向こう16年間（令和3（2021）～令和18（2036）年度）を対象期間とします。

ただし、この期間内でも児童・生徒数の変化、社会経済情勢、国の補助制度などの動向により、柔軟に計画を見直すこととします。

なお、コスト試算期間は計画上のゆとりをもたせて40年とします。

## 5 対象施設

本村が保有する木島平小学校、木島平中学校、学校給食センター、おひさま保育園を対象とし、施設内に存在する建物はすべて対象とします。

## 第2章 学校施設の目指すべき姿

木島平村教育大綱において示された施策を前提とした上で、文部科学省の「学校施設整備基本構想の在り方について」において示された「安全性」、「快適性」、「学習活動への適応性」、「環境への適応性」、「地域の拠点化」の観点から、次のとおりとします。

### ① 安全性

- 災害対策
  - ・地震に強い学校施設
  - ・防災機能を備えた学校施設
- 防犯・事故対策
  - ・安全で安心な学校施設

### ② 快適性

- 快適な学習環境
  - ・学習能率の向上に資する快適な学習環境
  - ・児童生徒の学校への愛着や思い出につながる学校
  - ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい環境
- 教職員に配慮した環境
  - ・教職員に配慮した空間
  - ・教職員の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要なICT環境
- バリアフリー化

### ③ 学習活動への適応性

- 主体性を養う空間の充実
  - ・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間
- 効果的・効率的な施設整備
  - ・学習効果を高めるためのICT環境
  - ・各教科等の授業を充実させるための環境
- 伝統や文化に関する教育の充実
  - ・伝統や文化に関する教育を行うための環境
- 外国語教育の充実
- 食育の充実
  - ・食育のための空間
- 特別支援教育の推進
  - ・支援の必要な子ども等に配慮した環境

### ④ 環境への適応性

- ・省エネルギー化（太陽光パネルの設置）

### ⑤ 地域の拠点化

- ・地域に開かれた学校とするための環境

## 第3章 学校施設等の実態

### 1 本村における人口の動向

#### (1) 人口・世帯数の推移

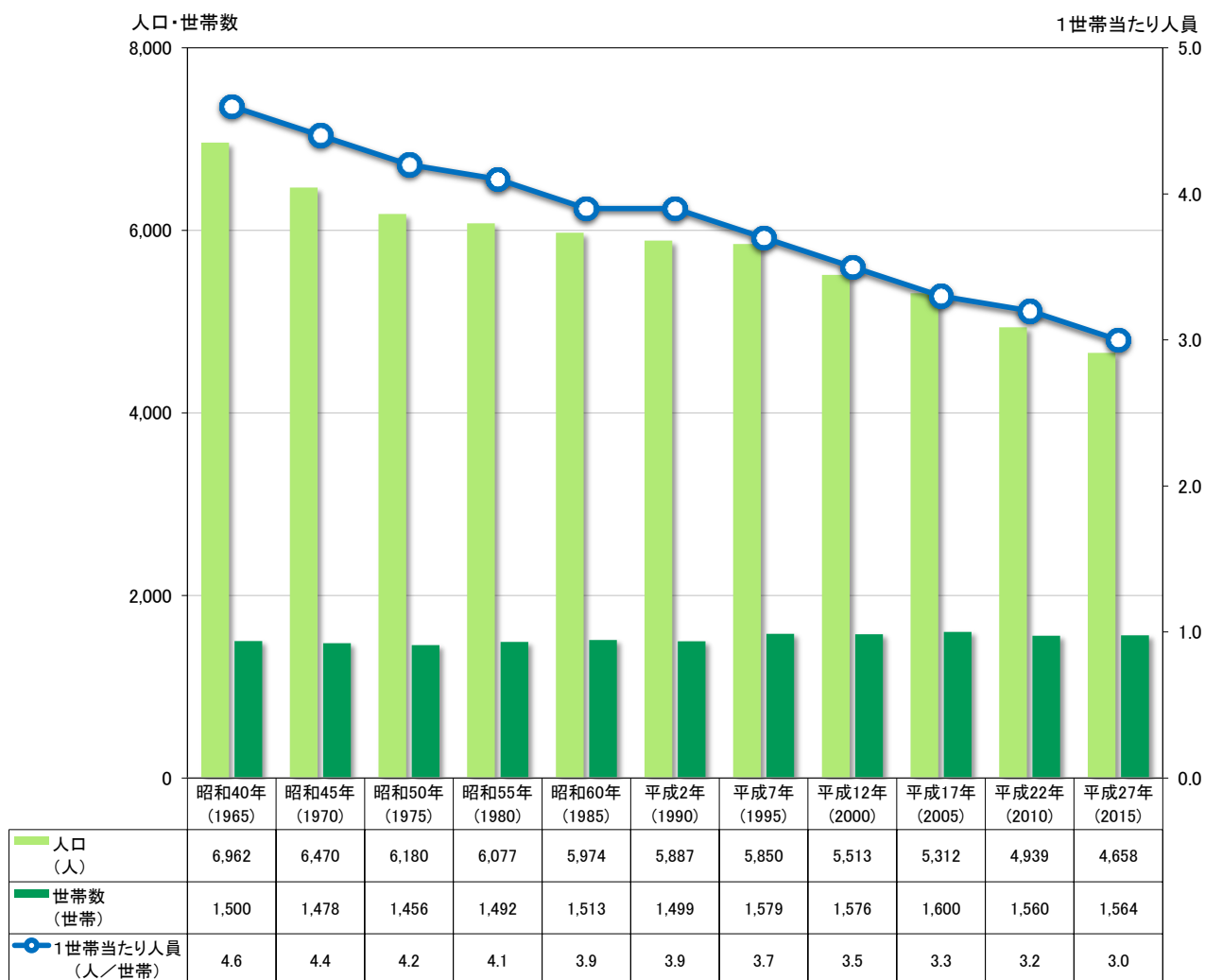
本村は、昭和30（1955）年2月に穂高村、往郷村、上木島村が合併し発足して以来、人口はほぼ一貫して減少傾向にあります。

国勢調査による本村の人口・世帯数の推移をみると、昭和40（1965）年の6,962人であった人口は、平成27（2015）年には4,658人と50年間で2,304人（33%）減少しています。

世帯数は、平成27（2015）年までの50年間、ほぼ横ばいの1,500世帯前後で推移しています。

また、1世帯あたりの人員は、昭和40（1965）年の4.6人から年々減少し、平成27（2015）年には3.0人となり、小世帯化が進行しています。

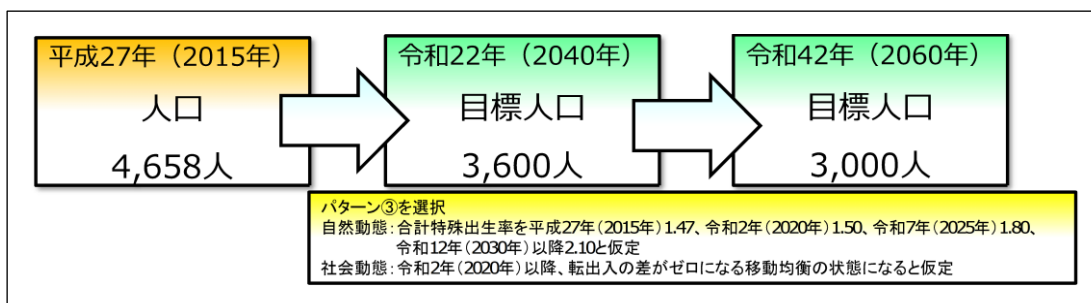
◆図表 3-1 人口・世帯数の推移（国勢調査）



## (2) 将来人口

木島平村人口ビジョン（令和2（2020）年3月改定）による将来展望は、合計特殊出生率の向上等による自然動態改善や、移住者受入や定住人口増加等による社会動態改善の施策を検討する取り組みを行った上で、令和22（2040）年に3,600人、令和42（2060）年に3,000人を目標人口としています。

◆図表 3-2 目標人口（木島平村人口ビジョン（令和2（2020）年3月改定））



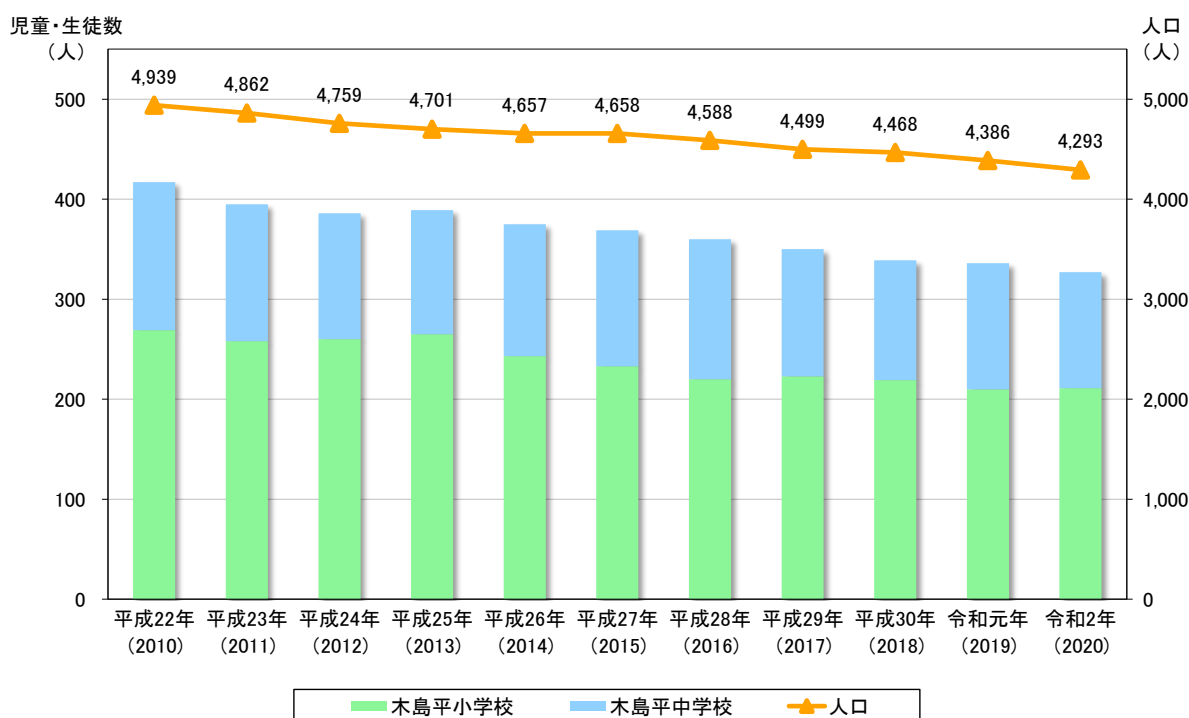
## 2 学校施設等の運営状況・活用状況等の実態

### (1) 児童・生徒数の推移

木島平小学校は平成22(2010)年4月に南部小学校・中部小学校・北部小学校の3校が統合し、発足されました。

平成22(2010)年以降の小学校及び中学校の児童・生徒数の推移をみると、人口の減少とともに年々減少し、平成22(2010)年の417人から、令和2(2020)年には327人となり、90人(約22%)減少しています。

◆図表 3-3 児童・生徒数の推移(長野県教育委員会 教育要覧)(長野県 毎月人口異動調査)

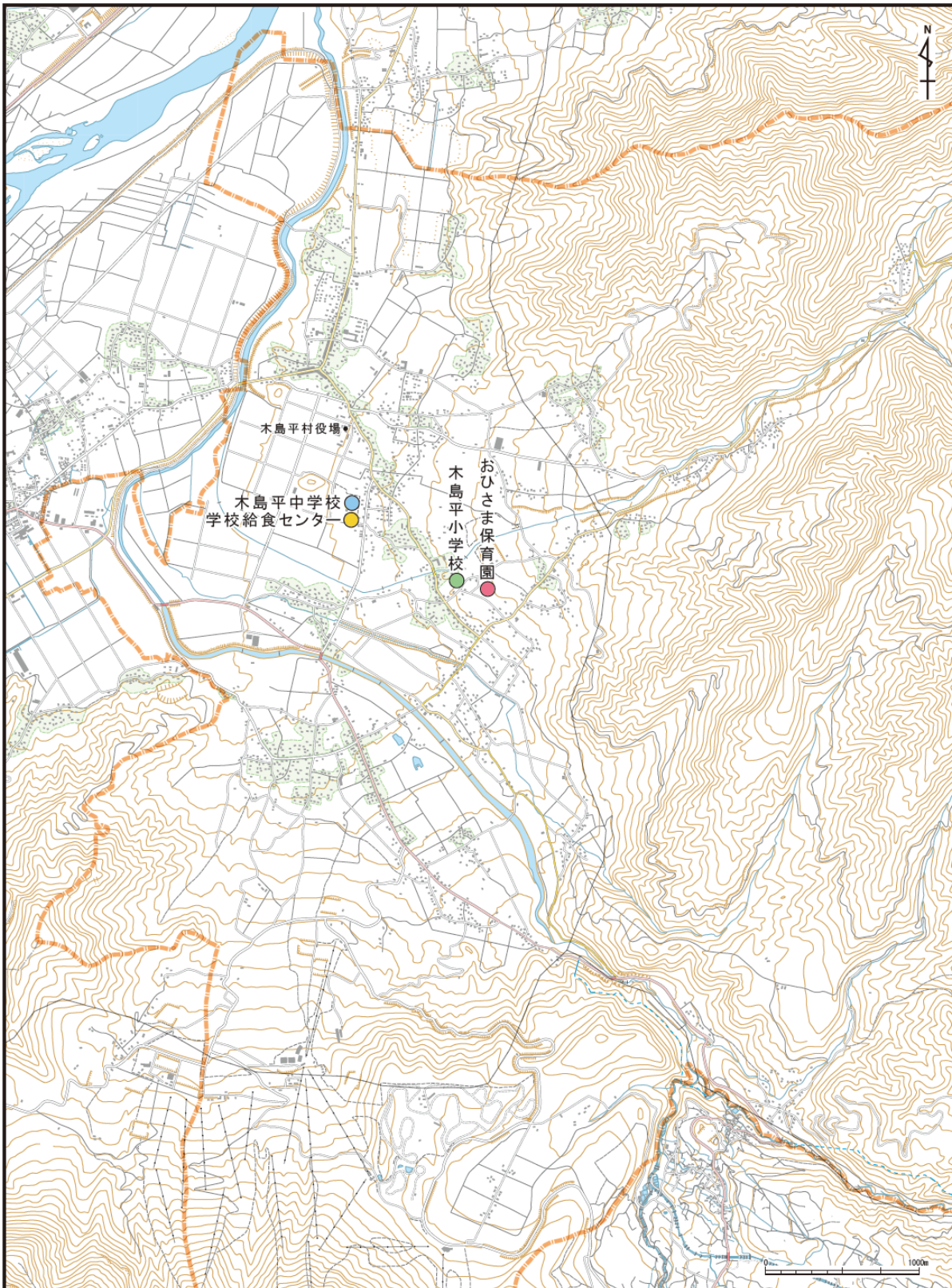


◆図表 3-4 児童・生徒数、学級数の推移(長野県教育委員会 教育要覧)

児童・生徒数		平成22年(2010)	平成23年(2011)	平成24年(2012)	平成25年(2013)	平成26年(2014)	平成27年(2015)	平成28年(2016)	平成29年(2017)	平成30年(2018)	令和元年(2019)	令和2年(2020)
木島平小学校	児童数	269人	258人	260人	265人	243人	233人	220人	223人	219人	210人	211人
	学級数	14	14	14	14	13	13	12	11	11	11	11
木島平中学校	生徒数	148人	137人	126人	124人	132人	136人	140人	127人	120人	126人	116人
	学級数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7
合計		417人	395人	386人	389人	375人	369人	360人	350人	339人	336人	327人

(2) 学校施設等位置図

◆図表 3-5 学校施設等位置図



## (3) 学校施設等の保有量

本計画対象施設の建物は、木島平小学校 4,479.00 m<sup>2</sup> (3 棟)、木島平中学校 6,014.00 m<sup>2</sup> (11 棟)、学校給食センター322.00 m<sup>2</sup> (1 棟)、おひさま保育園 1,881.66 m<sup>2</sup> (1 棟) であり、総延床面積は 12,706.66 m<sup>2</sup> (16 棟) です。建物以外に小・中学校にプールがあります。

◆図表 3-6 対象施設一覧表

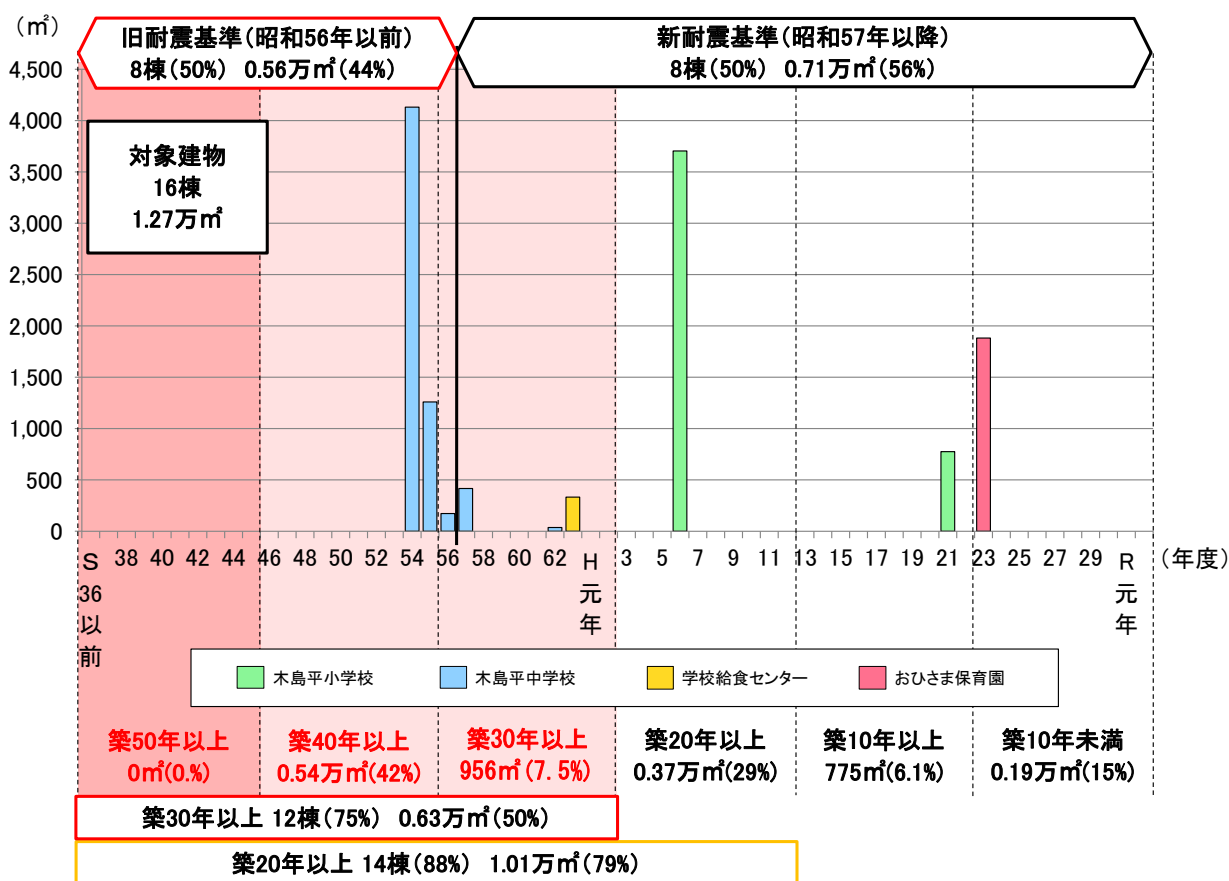
番号	施設名	建物名	学校調査番号	棟番号	所在地	構造	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年度西暦	建築年度和暦
1	木島平小学校	教室棟・体育館棟・食堂	2114	007-1,008,009	大字往郷3532	RC	3,548.00	1994	H6
2	木島平小学校	教室棟	2114	007-2,011	大字往郷3532	RC	775.00	2009	H21
3	木島平小学校	プール付属室	2114	010	大字往郷3532	W	156.00	1994	H6
A	小学校	プール			大字往郷3532		(大)25×10 (小)7×5	1967	S42
4	木島平中学校	南校舎	5106	001,004,005	大字往郷839	RC	1,641.00	1979	S54
5	木島平中学校	管理棟	5106	002	大字往郷839	RC	689.00	1979	S54
6	木島平中学校	北校舎	5106	003	大字往郷839	RC	1,754.00	1979	S54
7	木島平中学校	屋内運動場	5106	006	大字往郷839	S	1,242.00	1980	S55
8	木島平中学校	焼却炉	5106	007	大字往郷839	RC	9.00	1979	S54
9	木島平中学校	屋外便所	5106	008	大字往郷839	RC	38.00	1979	S54
10	木島平中学校	プール棟	5106	009	大字往郷839	S	172.00	1981	S56
11	木島平中学校	格技室	5106	010	大字往郷839	S	355.00	1982	S57
12	木島平中学校	渡り廊下	5106	011	大字往郷839	RC	61.00	1982	S57
13	木島平中学校	焼物棟	5106	012	大字往郷839	S	17.00	1980	S55
14	木島平中学校	渡り廊下	5106	013	大字往郷839	S	36.00	1987	S62
B	中学校	プール			大字往郷839		25×13	1981	S56
15	学校給食センター	学校給食センター	K067	001	大字往郷839	S	332.00	1988	S63
16	おひさま保育園	おひさま保育園			大字往郷2995-1	S	1,881.66	2011	H23

(4) 学校施設等の保有状況

築年別整備状況は図表 3-7 に示すとおりで、新耐震基準により建築された建物は 8 棟、残りの 8 棟は昭和 56 (1981) 年以前の旧耐震基準により建築された建物です。昭和 56 (1981) 年以前に建築されたものは木島平中学校で、そのうち主要な部分である校舎 3 棟、体育館 1 棟は耐震安全性が確認されています。

しかし、前述したものを含め、築年数では 20 年以上の建物が 14 棟と棟数で全体の 88% もあり、今後大規模改修など老朽化への対応、安全性を高める改修工事など、建物の適切な修繕や改修が必要になってきます。

◆図表 3-7 築年別整備状況



(5) 学校施設等関連経費の推移と修繕履歴

平成27(2015)～令和元(2019)年度の5年間の学校施設等関連経費は約22,890千円～119,522千円で、年平均は約46,352千円となります。なお、令和元(2019)年度は、小・中学校のエアコン設置工事(繰越分)により、施設整備費が高額となっています。

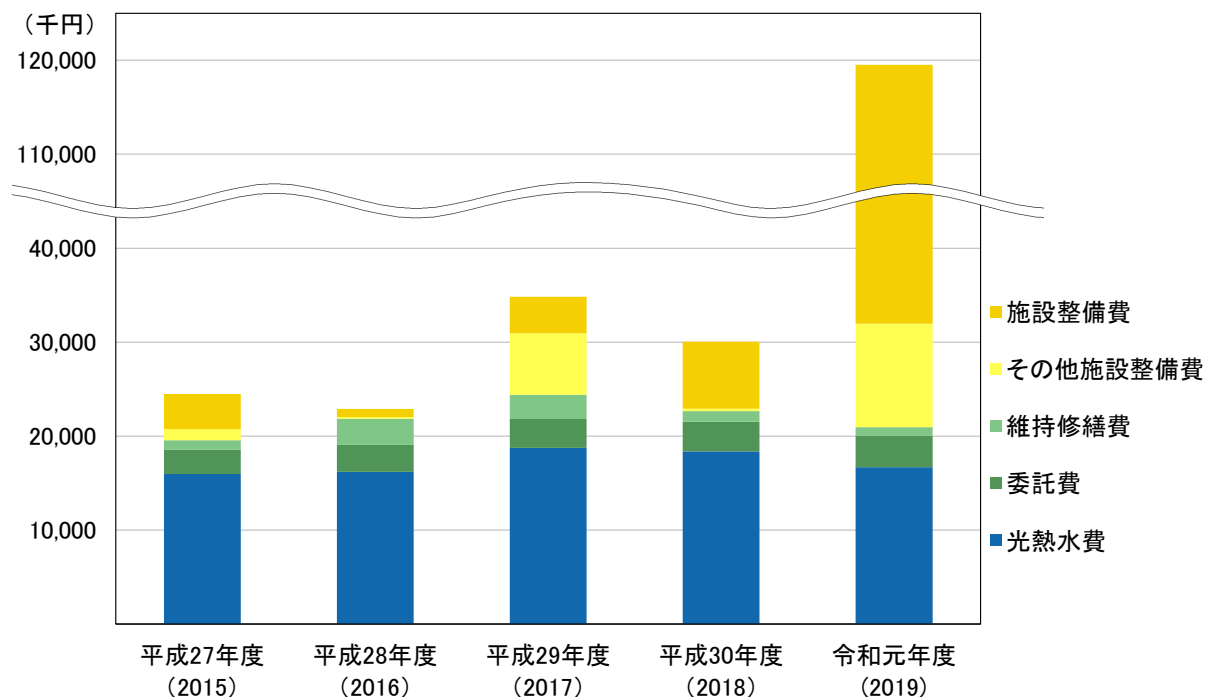
◆図表3-8 学校施設等関連経費の推移表

(単位:千円)

区分	年度	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	直近5年平均
施設整備費		3,720	875	3,861	7,128	87,564	20,629
その他施設整備費		1,197	172	6,566	259	11,010	3,841
維持修繕費		983	2,788	2,561	1,127	906	1,673
委託費		2,620	2,869	3,085	3,164	3,341	3,016
光熱水費		15,955	16,187	18,747	18,375	16,701	17,193
合計		24,475	22,890	34,819	30,052	119,522	46,352

※数字の単位未満は、四捨五入のため総数と内容の計が一致しない場合があります。

◆図表3-9 学校施設等関連経費の推移



◆図表 3-10-1 学校施設等修繕履歴調査表

(単位:千円)

No.	施設名	建物名	修繕履歴		直近5年間の実績									
			建設～平成26年度 (2014)		平成27年度 (2015)		平成28年度 (2016)		平成29年度 (2017)		平成30年度 (2018)		令和元年度 (2019)	
			工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額
1	木島平小学校	教室棟・体育館棟・食堂			排水桝改修工事	2,009	施設修繕	479	トイレ改修工事	643	トイレ改修工事	970	(繰越)エアコン設置工事	38,671
					施設修繕	509	教室改修工事(網戸取付工事)	787	施設修繕	996	施設修繕費	918	(繰越)設計 監理委託	1,188
					校舎修繕工事	143	校舎修繕工事	492					施設修繕	2,931
													トイレ改修工事	902
													校舎修繕工事	1,617
2	木島平小学校	教室棟											(繰越)エアコン設置工事	No.1 に含む
													(繰越)設計 監理委託	No.1 に含む
3	木島平小学校	プール付属室												
A	小学校	プール			プールフェンス修繕工事	430								
4	木島平中学校	南校舎	H7 耐震診断		施設修繕	1,711	施設修繕	510	施設修繕	1,452	FF式暖房機取替工事	906	(繰越)エアコン設置工事	36,929
			H10 耐震補強						トイレ改修工事	643			(繰越)設計 監理委託	1,188
													地上灯油タンク設置工事	1,441
5	木島平中学校	管理棟	H7 耐震診断								トイレ改修工事	No.6 に含む	(繰越)エアコン設置工事	No.4 に含む
			H10 耐震補強										(繰越)設計 監理委託	No.4 に含む
													FF式暖房機取替工事	770
													施設修繕	1,025

◆図表 3-10-2 学校施設等修繕履歴調査表

(単位:千円)

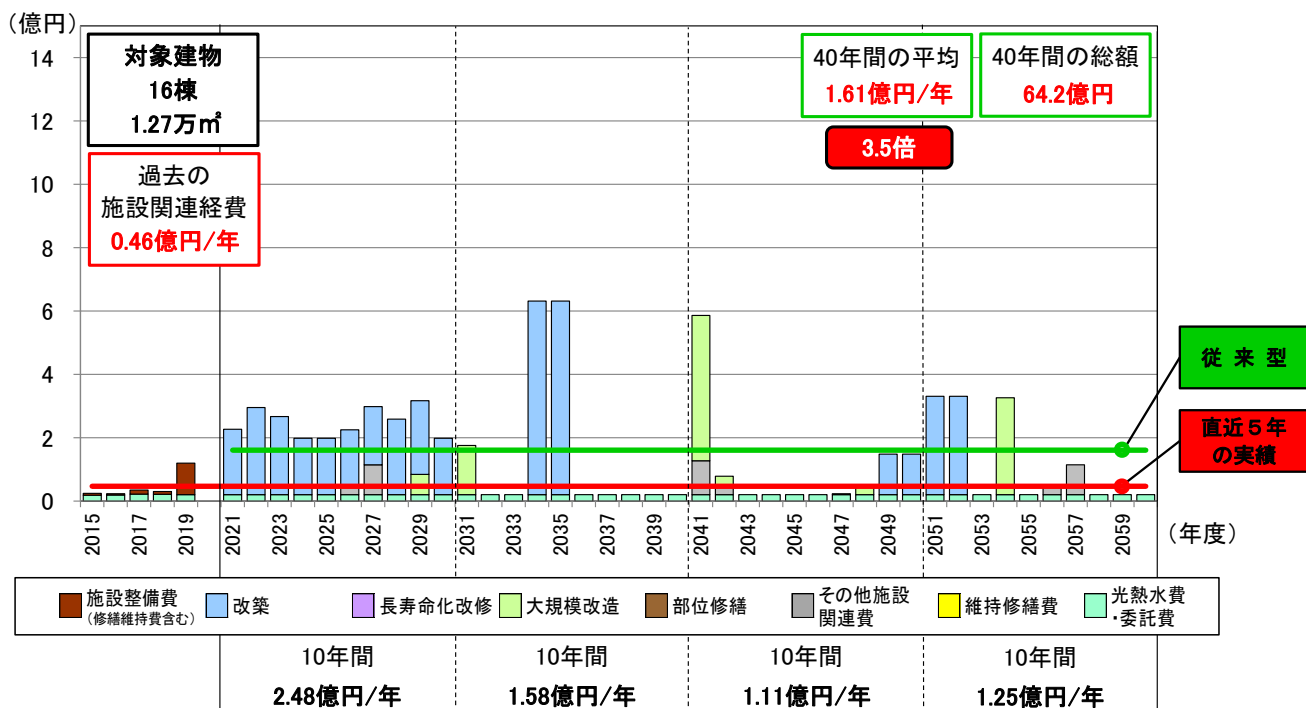
No.	施設名	建物名	修繕履歴		直近5年間の実績									
			建設～平成26年度 (2014)		平成27年度 (2015)		平成28年度 (2016)		平成29年度 (2017)		平成30年度 (2018)		令和元年度 (2019)	
			工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額	工事内容	金額
6	木島平中学校	北校舎	H7 耐震診断  H10 耐震補強				FF式暖房機 取替工事	875	FF式暖房機 取替工事	1,123	トイレ改修工 事  施設修繕	886  3,116	(繰越)エァ ン設置工事  (繰越)設計 監理委託  トイレ改修工 事	No.4 に含む  No.4 に含む  902
7	木島平中学校	屋内運動場	H7 耐震診断										トイレ改修工 事	No.6 に含む
8	木島平中学校	焼却炉												
9	木島平中学校	屋外便所												
10	木島平中学校	プール棟												
11	木島平中学校	格技室												
12	木島平中学校	渡り廊下												
13	木島平中学校	焼物棟												
14	木島平中学校	渡り廊下												
B	中学校	プール												
15	学校給食セ ンター	学校給食セ ンター			施設修繕	301	施設修繕	256	施設修繕	401	施設修繕	209	施設修繕	93
									改修工事(搬 出入口風除 室)	854				
16	おひさま保 育園	おひさま保 育園			施設修繕	31	施設修繕	262	施設修繕	309	施設修繕	1,250	施設修繕	447
													災害による施 設修繕工事	365

### 3 今後の維持・更新コスト（従来型）

学校施設等において、建築後 40 年前後（従来型）で改築を行った場合、今後 40 年間のコストは 64.2 億円（1.61 億円/年）と試算されます。これは、直近 5 年間の施設関連経費 0.46 億円/年の 3.5 倍になります。

今後、長寿命化によるトータルコストの縮減と予算の平準化を図り計画的に進めていく必要があります。

◆図表 3-11 今後の維持・更新コスト（従来型）



コスト算出条件(従来型)

- ・物価変動率、落札率は考慮しない。

基準年度: 令和 2(2020)年度(試算期間: 基準年の翌年度から 40 年間)

改築: 更新周期 40 年、工事期間 2 年  
 実施年数より古い建物の改修を 10 年以内に実施  
 改築単価 330,000 円/㎡  
 (総務省「公共施設等更新費用試算ソフト」分類別更新単価 学校教育施設)

大規模改造: 実施年数 20 年周期、工事期間 1 年  
 大規模改造単価 改築単価の 25% 82,500 円/㎡

プール: 更新周期 30 年 大規模改修 15 年  
 改築単価 330,000 円/㎡(他自治体学校プール参考)  
 大規模改修単価 改築の 25% 「その他施設関連費」に計上

光熱水費・委託費: 過去 5 年間の施設関連経費の平均

## 4 学校施設等の老朽化状況の実態

### (1) 構造躯体の健全性の把握と評価方法

長寿命化計画策定段階においては、今後の維持・更新コストの試算における区分を「試算上の区分」として設定しています。構造や耐震基準、履歴調査、現地調査等の結果を基に、長寿命化改修に適さない可能性のある建物を簡易に選別しています。（図表 3-12）

工事実施段階においては、躯体の詳細な調査結果（コンクリート圧縮強度等）及び施設の重要性や利用状況等の観点から総合的に検討した上で「長寿命」または「改築」を最終的に判断していくことになります。

◆図表 3-12 試算上の区分

構造	耐震基準	耐震補強等	試算上の区分	備考
RC SRC S CB	新	—	長寿命	
	旧	済み	長寿命	※1
		未	要調査、改築	耐震補強又は使用不可
W	新	—	改築	
	旧	—		

※1 RC造の場合は、コンクリート圧縮強度 13.5N/mm<sup>2</sup>以下のもの、S造の場合は、おおむね 40 年以上で腐食や劣化の進行が著しいもの、またはこれらの状況が不明な場合は「要調査」となる。

#### ■構造

RC：鉄筋コンクリート造

SRC：鉄骨鉄筋コンクリート造

S：鉄骨造

CB：コンクリートブロック造

W：木造（軽量鉄骨造、小規模建物等含む）

#### ■耐震基準

新耐震基準：昭和 56 (1981) 年 6 月 1 日以降の建築確認において適用されている基準をいう。

旧耐震基準：その前日まで適用されていた基準をいう。

## (2) 劣化状況の評価方法

建物の劣化状況の調査結果を分析・評価し、長寿命化に必要なコストと保全の優先順位を設定するため、以下のように評価を行い、総合劣化度を算出しました。

### ① 評価基準

評価基準をA～Dの4段階としました。(図表 3-13)

◆図表 3-13 評価基準

評価	劣化状況の評価基準	評価点
A評価	概ね良好	10点
B評価	局所、部分的に劣化が見られるが、安全上、機能上、問題なし	40点
C評価	随所、広範囲に劣化が見られ、安全上、機能上、低下の兆しが見られる	70点
D評価	随所、広範囲に著しい劣化が見られ、安全上、機能上、問題があり、早急に対応する必要がある	100点

### ② 部位の重要度係数

部位により建物の安全性もしくは機能性に及ぼす影響が異なることから、財団法人建築保全センター発行の「ライフサイクルコストデータベース (H17版)」の分類を参考とし、部位の重要度係数を以下の3段階としました。(図表 3-14)

◆図表 3-14 部位の重要度係数

部位の重要度の判断基準		重要度係数
大	特に安全性に関わる部位(躯体、屋上、外壁)	1.00
中	計画保全が望ましい部位(外部開口部、電気、機械)	0.50
小	事後保全で良い部位(内部、給排水、その他外部ほか)	0.25

### ③ 現況劣化度

$$\text{現況劣化度} = \frac{\text{総和 (各部の劣化状況評価点} \times \text{部位の重要度係数)}}{\text{評価の対象部位数}}$$

### ④ 総合劣化度

$$\text{総合劣化度} = \text{現況劣化度} + \text{築年数}$$

※但し、当該建物に大規模改修履歴がある場合は、15点減じています。

点数が大きいほど、建物の劣化が進んでいることとなります。

### ⑤ 総合劣化度の推測方法

劣化状況調査を実施しない建物については、構造別の耐用年数においてD評価になると仮定し、築年数により劣化度を推測して、総合劣化度を算出しました。推測した総合劣化度は、( )書きで表示しています。

(3) 調査方法

劣化状況の現地調査は、まず基本情報の整理、修繕履歴調査を行ったうえで、現地において施設の部位ごとに専門家（一級建築士）の目視による点検を行い、調査結果を劣化調査表に記録するとともに、現況写真を撮影しました。

◆図表 3-15 劣化調査表（一部抜粋）

通し番号	2		
施設名	木島平小学校	学校番号	2114
建物名	教室棟	調査日	令和2年8月6日
棟番号	007-2,011	記入者	〇〇 〇〇
構造種別	RC	延床面積	775 m <sup>2</sup>
		建築年度	平成21年度(2009年度)
		階数	地上 3階 地下 階

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	部 小 規 模 的 広 範 囲	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防水 <input type="checkbox"/> アスファルト露出防水 <input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水 <input checked="" type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板) <input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類) <input type="checkbox"/> その他の屋根 ( )			<input type="checkbox"/> 汚れ <input type="checkbox"/> 変退色 <input type="checkbox"/> 仕上材剥がれ <input type="checkbox"/> 錆・錆汁 <input type="checkbox"/> 変形・損傷・破損等 <input type="checkbox"/> 漏水痕 <input type="checkbox"/> その他 ( )	○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○ ○○○	軒天:漏水痕、エフロレッセンス 軒天:漏水痕、エフロレッセンス	A
2 外壁	<input type="checkbox"/> モルタル等の塗仕上げ <input type="checkbox"/> タイル張り、石張り <input type="checkbox"/> 金属系パネル <input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等) <input checked="" type="checkbox"/> その他の外壁 (RC+吹付 ) <input checked="" type="checkbox"/> アルミ製サッシ <input type="checkbox"/> 鋼製サッシ <input checked="" type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス、ペアガラス			<input checked="" type="checkbox"/> 汚れ <input type="checkbox"/> 変退色 <input type="checkbox"/> 仕上材剥がれ <input checked="" type="checkbox"/> ひび割れ <input type="checkbox"/> モルタル・タイル等の浮き <input type="checkbox"/> 錆・錆汁 <input checked="" type="checkbox"/> 変形・損傷・破損等 <input type="checkbox"/> 漏水痕 <input type="checkbox"/> その他 ( )	●○○○ ○○○○ ○○○○ ●○○○ ○○○○ ●○○○ ○○○○ ○○○○	ベランダ 床:汚れ、ひび割れ ベランダ 壁:汚れ	A

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井 (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input type="checkbox"/> 老朽改修 <input type="checkbox"/> エコ改修 <input type="checkbox"/> トイレ改修 <input type="checkbox"/> 法令適合 <input type="checkbox"/> 校内LAN <input type="checkbox"/> 空調設置 <input type="checkbox"/> 障害児等対策 <input type="checkbox"/> 防犯対策 <input type="checkbox"/> 構造体の耐震対策 <input type="checkbox"/> 非構造部材の耐震対策 <input type="checkbox"/> その他、内部改修工事		指摘事項 床:汚れ、変形、床タイル汚れ 家具:損傷、変形	A
4 電気設備	<input type="checkbox"/> 分電盤改修 <input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事 <input type="checkbox"/> 昇降設備保守点検 <input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事			B
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修 <input type="checkbox"/> 排水配管改修 <input type="checkbox"/> 消防設備の点検 <input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事		指摘事項 オイルタンク:一部錆 2階男子トイレ 洋式便器:故障	B

特記事項(改修工事内容や12条点検、消防点検など、各種点検等による指摘事項が有れば、該当部位と指摘内容を記載)

【ヒアリング】雨漏り等無 H30 エアコン設置工事	現況劣化度
【12条点検】H29.11.21 要是正なし	

13

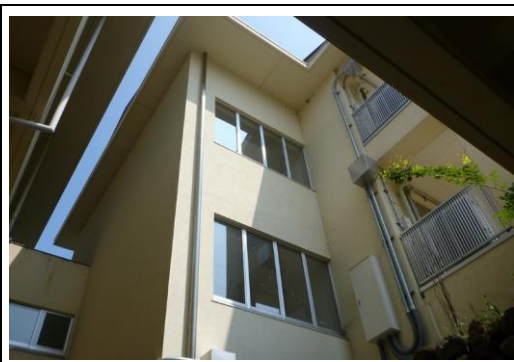
◆図表 3-16-1 現況写真（一部抜粋）

写 真 台 帳



P1330053.JPG

建物名	教室棟	外観：現況
写真No.	1	
部位	外観	
評価		



P1330060.JPG

建物名	教室棟	外観：現況
写真No.	2	
部位	外観	
評価		



P1330104.JPG

建物名	教室棟	外観：現況
写真No.	3	
部位	外観	
評価		



P1330106.JPG

建物名	教室棟	外観：現況
写真No.	4	
部位	外観	
評価		



P1330114.JPG

建物名	教室棟	外観：現況
写真No.	5	
部位	外観	
評価		

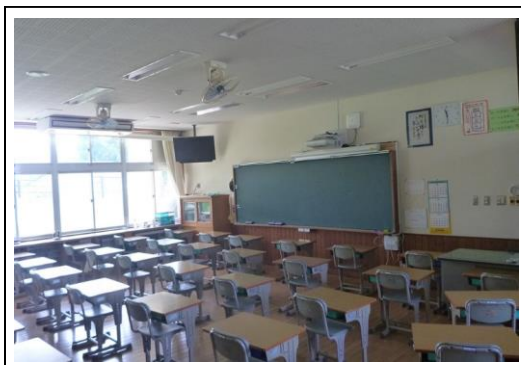


P1330118.JPG

建物名	教室棟	外観：現況
写真No.	6	
部位	外観	
評価		

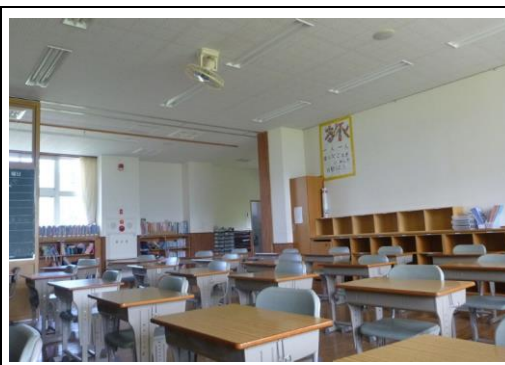
◆図表 3-16-2 現況写真（一部抜粋）

写 真 台 帳



P1330128.JPG

建物名	教室棟	6年1組：現況
写真No.	23	
部位	内部仕上	
評価	A	



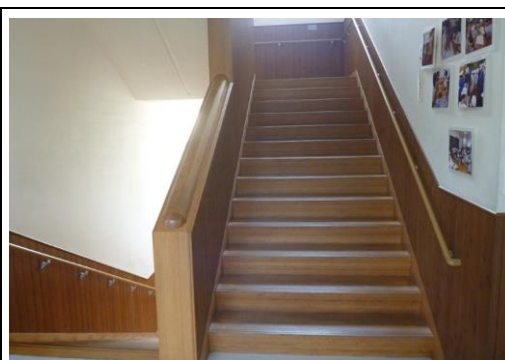
P1330129.JPG

建物名	教室棟	6年1組：現況
写真No.	24	
部位	内部仕上	
評価	A	



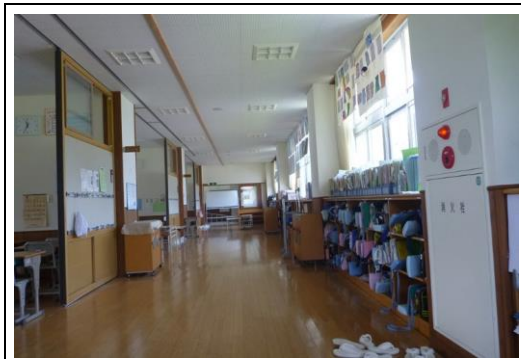
P1330132.JPG

建物名	教室棟	3年1組 床：汚れ、変形
写真No.	25	
部位	内部仕上	
評価	A	



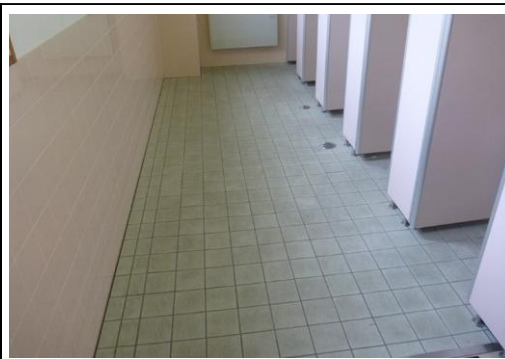
P1330133.JPG

建物名	教室棟	階段：現況
写真No.	26	
部位	内部仕上	
評価	A	



P1330134.JPG

建物名	教室棟	3階ワークスペース：現況
写真No.	27	
部位	内部仕上	
評価	A	



P1330135.JPG

建物名	教室棟	3階女子トイレ 床タイル：汚れ
写真No.	28	
部位	内部仕上	
評価	A	

(4) 劣化状況調査結果

学校施設等の劣化状況調査結果を基に分析・評価を行った結果は、図表 3-17 建物状況一覧表のとおりです。

現地調査を行った施設は、1. 木島平小学校（教室棟・体育館棟・食堂）、2. 木島平小学校（教室棟）、15. 給食センター及び 16. おひさま保育園の 4 棟です。D 評価「早急に対応する必要がある」とされる判定はなかったものの、学校給食センターが C 評価「広範囲に劣化」の部位（外壁、内部仕上、電気設備）があるという結果となりました。

木島平中学校の劣化状況評価は「令和 2 年度木島平中学校劣化診断書」により記載しています。

◆図表 3-17 建物状況一覧表

長寿命：長寿命化改修対象  
 ※1 要調査：耐震診断・耐震補強対象  
 改築：建替え対象

基準：2020

 ：築50年以上   
  ：築30年以上   
  ：基準：2020

A：概ね良好   
 C：広範囲に劣化  
B：部分的に劣化   
D：早急に対応する必要がある

建物基本情報										構造躯体の健全性					劣化状況評価					総合劣化度	大規模改修年度等		
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	構造	階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備			機械設備	現況劣化度
								西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )					試算上の区分(※1)			
1	2114	木島平小学校	教室棟・体育館棟・食堂	007-1, 008, 009	RC	3	3,548	1994	H6	26	新				長寿命	B	B	B	B	B	26	52	
2	2114	木島平小学校	教室棟	007-2, 011	RC	3	775	2009	H21	11	新				長寿命	A	A	A	B	B	13	24	
3	2114	木島平小学校	プール付附属室	010	W	地上1 地下1	156	1994	H6	26	新				改築	-	-	-	-	-	-	(52)	
4	5106	木島平中学校	南校舎	001, 004, 005	RC	3	1,641	1979	S54	41	旧	済	済	H7	長寿命	C	C	B	C	A	38	64	H10
5	5106	木島平中学校	管理棟	002	RC	2	689	1979	S54	41	旧	済	済	H7	長寿命	C	C	B	C	A	38	64	H10
6	5106	木島平中学校	北校舎	003	RC	3	1,754	1979	S54	41	旧	済	済	H7	長寿命	C	C	C	C	A	40	66	H10
7	5106	木島平中学校	屋内運動場	006	S	2	1,242	1980	S55	40	旧	済	-	H7	長寿命	C	C	C	C	A	40	80	
8	5106	木島平中学校	焼却炉	007	RC	1	9	1979	S54	41	旧				要調査	-	-	-	-	-	-	(87)	
9	5106	木島平中学校	屋外便所	008	RC	1	38	1979	S54	41	旧				要調査	-	-	-	-	-	-	(87)	
10	5106	木島平中学校	プール棟	009	S	1	172	1981	S56	39	旧				要調査	C	C	B	C	A	38	77	
11	5106	木島平中学校	格技室	010	S	1	355	1982	S57	38	新				長寿命	C	C	A	C	A	37	75	
12	5106	木島平中学校	渡り廊下	011	RC	1	61	1982	S57	38	新				長寿命	-	-	-	-	-	-	(84)	
13	5106	木島平中学校	焼物棟	012	S	1	17	1980	S55	40	旧				要調査	-	-	-	-	-	-	(86)	
14	5106	木島平中学校	渡り廊下	013	S	2	36	1987	S62	33	新				長寿命	-	-	-	-	-	-	(79)	
15	K067	学校給食センター	学校給食センター	001	S	1	332	1988	S63	32	新				長寿命	B	C	C	C	B	37	69	
16		おひさま保育園	おひさま保育園		S	1	1,882	2011	H23	9	新				長寿命	A	A	A	A	A	7	16	

## 第4章 学校施設等整備の基本的な方針等

### 1 学校施設の規模・配置計画等の方針

本村の学校施設は、小学校1校、中学校1校です。小学校は、平成22（2010）年4月に3校を1校に統合しました。本計画における劣化状況調査の分析・評価と村の財政状況を踏まえ、当面、小・中学校は現在の配置を維持していくこととします。

今後、村では少子化や施設老朽化等の課題に対して、学校課題検討委員会（仮）を立ち上げ、教育環境の将来像や新たな学校の目指す姿について審議し、小・中学校の適正規模や学校配置に関する基本的な方針を定め、概ね令和17（2035）年度～令和22（2040）年度の間での改築を目標に、整備計画を策定するものとします。

## 2 長寿命化計画の基本的な方針

学校施設等を常に健全な状態に保ち、安全安心で快適な教育環境を維持するために、施設の定期的な点検の実施や老朽化や機能の低下が生じる前に予防的な修繕を行い、従来の事後保全での整備と比較して施設を長く使用することができます。

「学校施設等の長寿命化」を図る上で「計画保全」の考え方が重要になります。

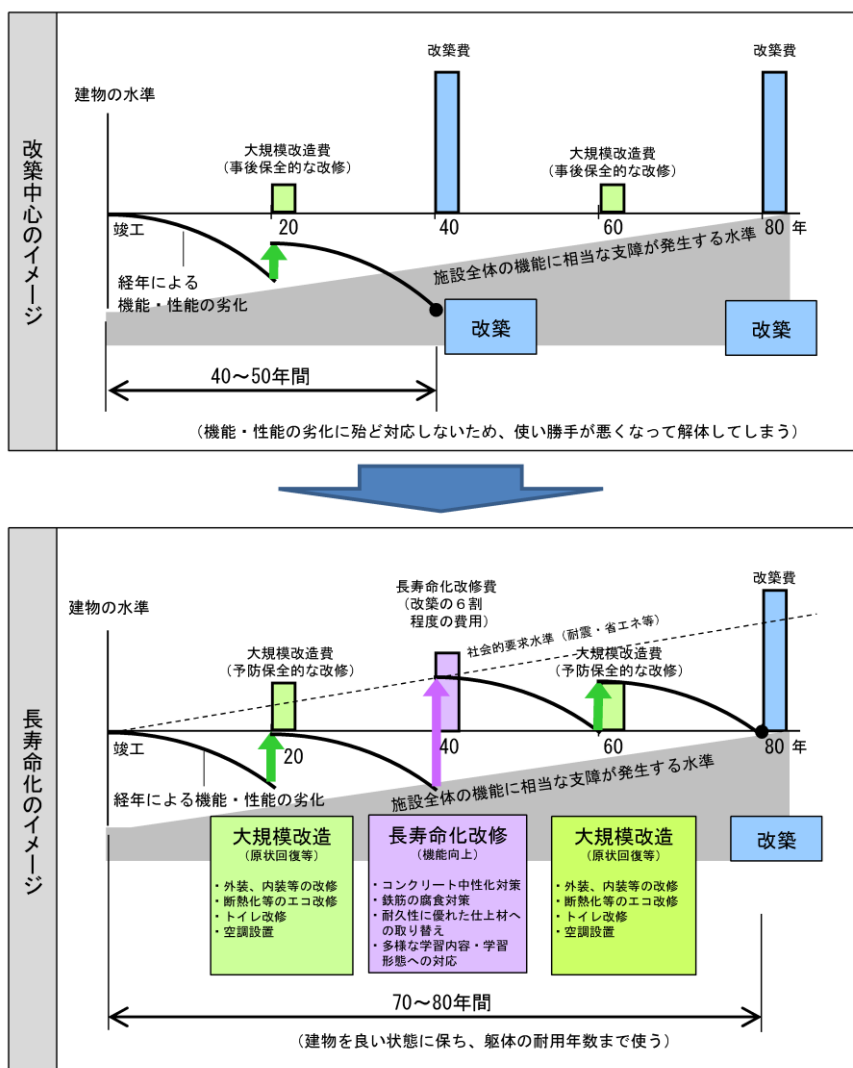
学校施設等の整備について、改築もしくは事後保全の維持管理（改築周期 40 年）から、計画保全による建物の長寿命化（改築周期 80 年）に切り替えを行います。

約 20 年スパンで予防保全的な改修を計画的に行うなど、部位改修を併用した整備を行い、建築後 40 年程度経過後（中間期）に長寿命化改修を行います。

なお、長寿命化改修または改築工事は、文部科学省の各種補助制度を可能な限り活用して、村の財政負担の軽減を図るとともに、現在から将来の学校の使われ方、総合管理計画の考え方を考慮して効率的・効果的な工事を行います。

### ◆図表 4-1 改築中心から長寿命化への転換のイメージ

（「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」平成 27（2015）年 4 月文部科学省）



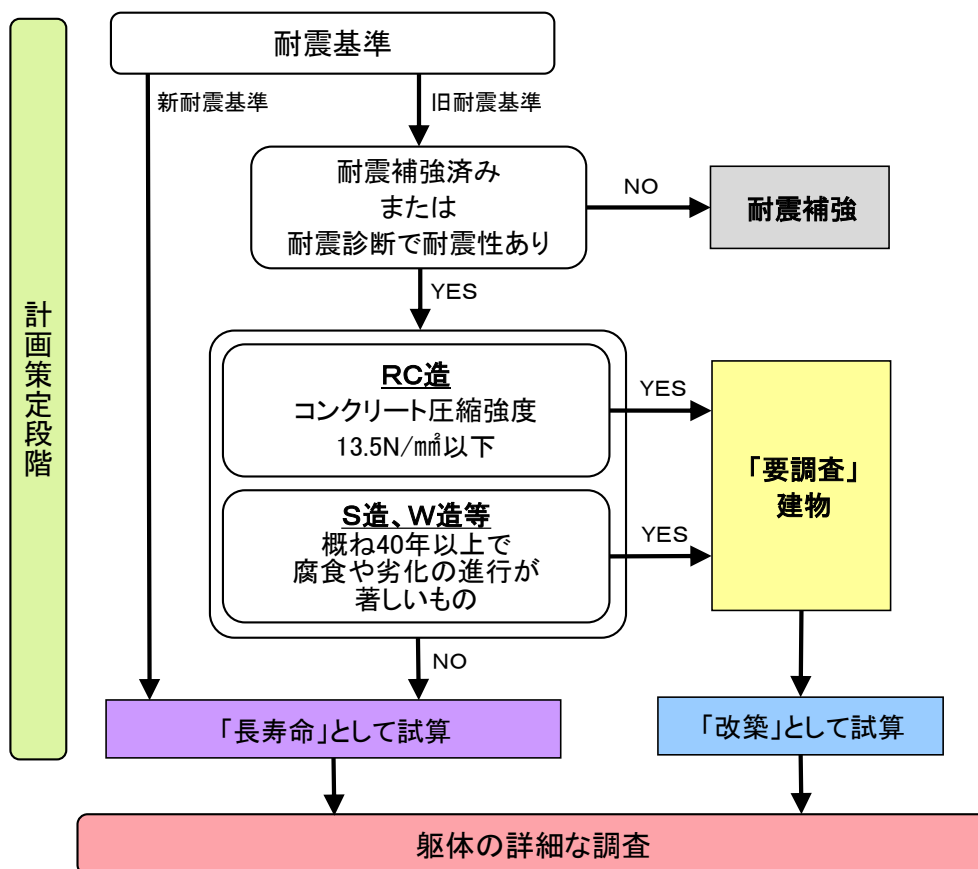
### 3 改修等の基本的な方針

文部科学省では、学校施設等の長寿命化のメリットとして、次の3つを掲げています。

- ① 改築と比較して構造体（柱や梁）の工事が大幅に減少するため、工事費用の縮減や工期の短縮を行うことができる。
- ② 長寿命化改修への転換により、限られた予算でより多くの施設の安全性を確保しつつ、機能の向上を図ることができ、子どもたちにとって快適で居心地の良い学習・生活の場を確保することができる。
- ③ 改築と比べて廃棄物排出量や二酸化炭素発生量が減少し、大幅に環境負荷が低減する。

本村において、詳細診断の結果、長寿命化改修が可能な学校施設等は長寿命化を図ることとしますが、実際の長寿命化・改築等の判断は、児童・生徒数の将来見通し、詳細診断の結果、財政状況や各種補助制度を総合的に勘案して決定するものとします。

◆図表 4-2 長寿命化判定フロー

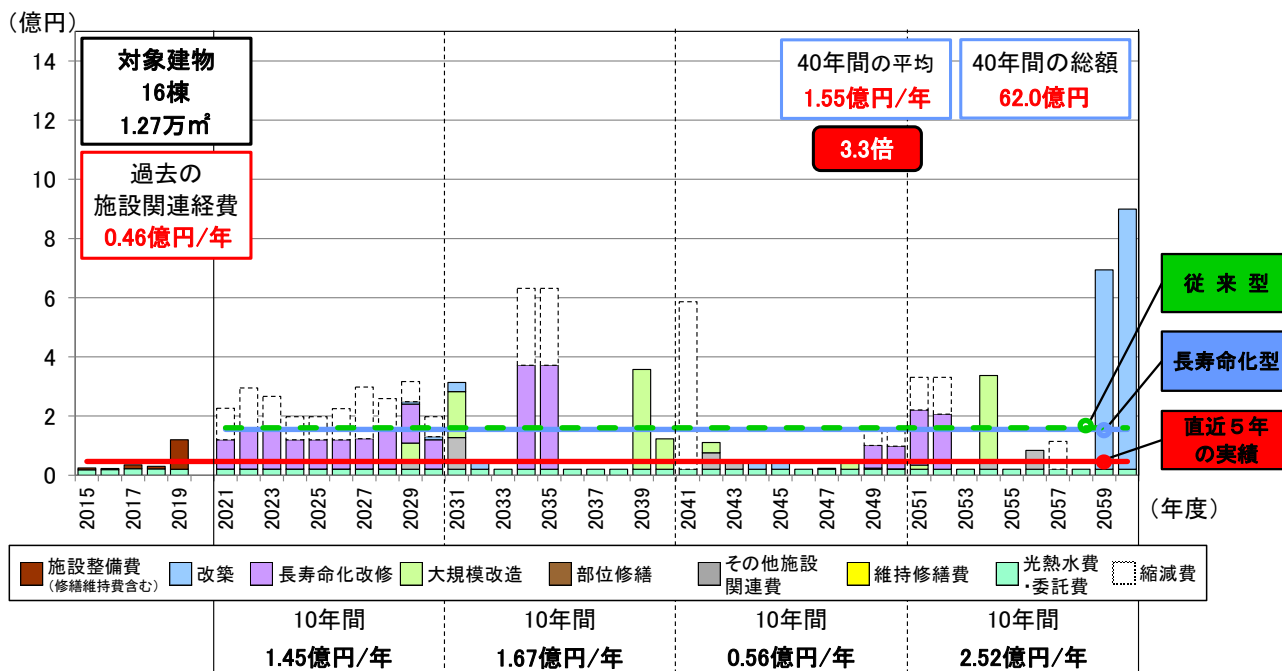


## 4 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

今後、学校施設等の改築による費用集中を避け、将来の費用を縮減していくため、長寿命化により築後 80 年間使用できるようにした場合、今後 40 年間の維持・更新コストは総額 62.0 億円（1.55 億円/年）となり、従来の改築中心の場合（図表 3-11）の 64.2 億円（1.61 億円/年）より総額 2.2 億円（0.06 億円/年）と僅かな縮減となりました。これは、令和 41（2059）、令和 42（2060）年度に改築を迎える建物があるためであり、今後 30 年間の維持・更新コストでみると、長寿命化型の総額は 36.8 億円、従来型の総額は 51.7 億円と約 29%の縮減と試算されます。

しかし、将来の人口減少による財源不足、児童・生徒数の減少、施設の老朽化等を考慮した適正化について検討します。

◆図表 4-3 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）



**コスト算出条件（長寿命化型）**

基準年度：令和 2（2020）年度（試算期間：基準年の翌年度から 40 年間）

改築：更新周期 改築、要調査 40 年 長寿命 80 年  
工事期間 2 年 実施年数より古い建物の改修を 10 年以内に実施

大規模改造：実施年数 20 年周期  
（ただし、改築、長寿命化改修の前後 10 年間に重なる場合は実施しない）

部位修繕：D評価 今後 5 年以内に部位修繕 C評価 今後 10 年以内に部位修繕を実施  
（ただし、改築、長寿命化改修、大規模改造を今後 10 年以内に実施する場合を除く）  
A評価 今後 10 年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く

単価設定：改築単価 330,000 円/㎡（総務省 公共施設等更新費用試算ソフト「分類別更新単価」）  
長寿命化改修 改築単価の 60% 198,000 円/㎡ 大規模改造 改築単価の 25% 82,500 円/㎡

プール：更新周期 改築 50 年 長寿命化改修 25 年 大規模改修 12 年  
改築単価 330,000 円/㎡（他自治体プール参考）  
長寿命化改修 改築単価の 60% 大規模改修 改築単価の 25%  
「その他施設関連費」に計上

光熱水費・委託費：過去 5 年間の施設関連経費の平均

## 5 目標耐用年数の設定

目標耐用年数は、日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」が提案する算定式や施設使用の限界年数の考え方を参考に、図表 4-4 のとおり設定します。

なお、学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（平成 27（2015）年 4 月文部科学省）では、「適正な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には 70～80 年程度、さらに、技術的には 100 年以上持たせるような長寿命化も可能である。」とされています。

◆図表 4-4 構造に応じた目標耐用年数

目標耐用年数		
鉄筋コンクリート造 鉄骨・鉄筋コンクリート造	鉄骨・ブロック造	木造（小規模建物）
80年	60年	40年

◆図表 4-5 建築全体の望ましい目標耐用年数の級

用途	構造	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄骨造			ブロック造 れんが造	木造
		高品質の場合	普通品質の場合	重量鉄骨		軽量鉄骨		
				高品質の場合	普通品質の場合			
学校・庁舎		Y。100以上	Y。60以上	Y。100以上	Y。60以上	Y。40以上	Y。60以上	Y。60以上
住宅・事務所 ・病院		Y。100以上	Y。60以上	Y。100以上	Y。60以上	Y。40以上	Y。60以上	Y。40以上
店舗・旅館 ・ホテル		Y。100以上	Y。60以上	Y。100以上	Y。60以上	Y。40以上	Y。60以上	Y。40以上
工場		Y。40以上	Y。25以上	Y。40以上	Y。25以上	Y。25以上	Y。25以上	Y。25以上

建築物の耐久計画に関する考え方（（社）日本建築学会）より

◆図表 4-6 目標耐用年数の級の区分の例

級(Y。)	目標耐用年数		
	代表値	範囲	下限値
Y。150	150年	120～200年	120年
Y。100	100年	80～120年	80年
Y。60	60年	50～80年	50年
Y。40	40年	30～50年	30年
Y。25	25年	20～30年	20年
Y。15	15年	12～20年	12年
Y。10	10年	8～12年	8年
Y。6	6年	5～8年	5年
Y。3	3年	2～5年	2年

建築物の耐久計画に関する考え方（（社）日本建築学会）より

## 6 更新周期

建物は構成する主要な部位や材質に応じた耐用年数の目安があります。建築物の長寿命化を図るため、更新周期（年数）は、個別の仕様や材料により異なるため、下表に示すとおり部位に応じて一定の幅を持たせる方針とします。

緊急性や重要性等を考慮し、施設本体の長寿命化修繕改修を優先的に実施します。

また、比較的大規模な修繕工事においては、その工事と関連した部位を同時に措置することが合理的となり、修繕費用の低減を図ることが可能となります。

◆図表 4-7 改修周期と改修内容の例

築年数	事業区分	工事内容
0 年	新築(改築)	建物の新設
20 年	大規模改造(原状回復等)	内外装・設備の更新
40～45 年	長寿命化改修(機能向上)	内外装・設備の更新 必要に応じて、躯体の改質工事
60～65 年	大規模改造(原状回復等)	内外装・設備の更新

◆図表 4-8 主な改修工事と関連部位・機器等の例

部位・設備等	主な改修工事	同時に措置した方が良い 部位・設備等の例	更新・改修 周期の目安
外 壁	仕上げ改修(塗装、吹付、タイル補修等)	シーリング、外部建具、笠木、樋、断熱材	15～30 年 仕上げ材による
	クラック補修、浮き補修	シーリング、外部建具、笠木	10～15 年
	建具改修(サッシ、カーテンウォール等)	シーリング	約 40 年
屋 根	防水改修	排水溝(ルーフトレン)、笠木、屋上手すり、設備架台、断熱材	20～30 年
電 気 設 備	受変電設備改修	分電盤、変圧機、コンデンサ、幹線	25～30 年
空 調 設 備	冷暖房設備(ファンコイル、空調機)改修	ポンプ、冷却塔、配管等、屋上防水	15～20 年
	熱源改修	配管等	15～20 年
給排水衛生設備	給排水設備改修	ポンプ、受水槽配管(冷温水管)等	15～30 年

公共建築の部位・設備の特性等を踏まえた中長期修繕計画策定及び運用のためのマニュアル(平成17年6月)より抜粋

※ その他、ストックに対する主な工事として、耐震性能向上、環境性能向上、バリアフリー化等を目的とした改修を行う場合も想定されますが、劣化や機能停止への対処として行われる性質のものではないため、本整理の対象外としました。ただし、施設の実情等に応じて、これらの改修工事と修繕を同時に行うことも検討する必要があります。

## 7 今後の方向性の定義

ソフト（建物の機能）とハード（建物）の両面から、学校施設等について今後の方向性を検討し、下表のとおり整理します。

◆図表 4-9 今後の方向性の定義表

区 分	方 向 性	内 容
機能	継続	機能を現状のまま継続する
	集約	同一用途の施設を一つの建物に集める
	統合	別々の用途を有する施設を一つの建物に集める
	移転	集約・統合・建物移転により、機能に移転させる
	転用	現用途を廃止し、他用途への転用を行う
	廃止	施設（建物）の現用途の廃止を行う
	継続検討	将来の施設の整備方針を継続検討する
建物	継続	建物を現状のまま継続する
	譲渡	建物を「無償」または「有償」で民間に譲渡する
	貸付	建物を「無償」または「有償」で民間に貸付ける
	改築	建物を建替える
	集約	同一用途の施設を一つの建物に集める
	複合	別々の用途の施設を一つの建物に集める
	移転	移転して建替える
	減築	建物を改築する際に床面積を減らすこと
	取壊し	用途廃止した施設の建物を解体する
	継続検討	将来の建物の整備方針を継続検討する

## 第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

### 1 改修等の整備水準

文部科学省は「学校施設の長寿命化計画策定の手引」において、「改修（特に長寿命化改修）の実施に当たっては、単に数十年前の建築時の状態に戻すのではなく、構造体の長寿命化やライフラインの更新等により建物の耐久性を高めるとともに、省エネルギー化や多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、現代の社会的な要請に応じるための改修を行うことが重要である。」としています。

長寿命化改修において配慮すべき性能として、安全安心に学べる教育環境とし、少子高齢化や小・中学校の地域としての役割（避難所、地域コミュニティの場等）を踏まえ、学校生活の場として必要な環境の確保・維持や、教育のICT化、省エネルギー化、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、防災・防犯等の社会的要求に対応した機能付加など、ニーズや費用等を勘案しながら整備を進めていきます。

改修等の整備水準検討表を図表 5-1 に示します。

◆図表 5-1 改修等の整備水準基準検討表（小・中学校）

		改修案 (内部改修と同時に実施し機能向上を図る改修)					
部位		高	改修メニュー(整備レベル)		低	既存の整備レベル	
外部仕上げ	屋根・屋上	ステンレス製屋根葺き替え	ガルバリウム鋼板製屋根葺き替え	カラー鉄板屋根葺き替え	屋根塗装	ガルバリウム鋼板	長尺カラー鉄板
	外壁	外断熱パネル	外壁塗装(光触媒フッソ樹脂塗材) 内断熱	外壁塗装(防水型複層塗材)	断熱なし	コンクリート打放し+吹付タイル(一部外断熱)	コンクリート打放し+リシン吹付
	外部開口部(校舎)	サッシ交換(Low-e複層ガラス)	サッシ交換(カバー・はつり工法)(複層ガラス等)	既存サッシの強化ガラス交換		アルミサッシ(単板ガラス、一部複層ガラス)	スチールドア
	外部開口部(体育館)	サッシ交換(Low-e複層ガラス)	サッシ交換(カバー・はつり工法)(複層ガラス等)	既存サッシの強化ガラス交換		アルミサッシ(単板ガラス)	スチールドア
内部仕上げ	内部仕上げ(教室等)	内装の全面撤去・更新(木質化)	床、壁、天井撤去・更新 黒板・ロッカー等更新	床補修 壁、天井塗替え	黒板更新	床:フローリング 壁:塗装、板張、ビニールクロス 天井:ボード張	
	トイレ	内装の全面撤去・更新 ドライ化 洗浄機能付き便座	内装の全面撤去・更新 洗浄機能付き便座(一部)	床補修 壁、天井塗替え	洋式化	床:ウェット(タイル)	洋式、和式
省エネ化	電気設備	LED照明に交換(人感センサー、照度センサー付) 太陽光パネル設置	LED照明に交換	蛍光灯(Hf)照明更新		蛍光灯	
	給排水衛生設備	節水型便器、小便器(センサー付)	節水型便器			一般便器	
	空調設備	ヒートポンプ式マルチエアコン 全熱交換器(CO2センサー付)	中央方式 全熱交換器	エアコン 全熱交換器	FF式ヒーター	エアコン、扇風機、FF暖房機、24時間換気	
バリアフリー	建築	スロープ、手すり	案内板、カウンター	誘導ブロック	車椅子対応駐車場	スロープあり	
	トイレ	多目的トイレ	車椅子用トイレ	校庭開放用		車椅子用トイレ	
	昇降機	車椅子対応エレベーター	乗用エレベーター			車椅子エレベーター	
防災・防犯	建築	非構造部の耐震化	構造部の耐震化			構造部の耐震化	
	自家発電設備	非常用自家発電設備	発電機(ポータブル)			なし	
	インターホン	モニター付き	管理室、教室			なし	
	防犯カメラ	防犯カメラ	防犯カメラ(正面玄関)			なし	
	防災設備	災害時飲料用受水槽ステンレス製	災害時飲料用受水槽FRP製			なし	

## 2 維持管理の項目・手法等

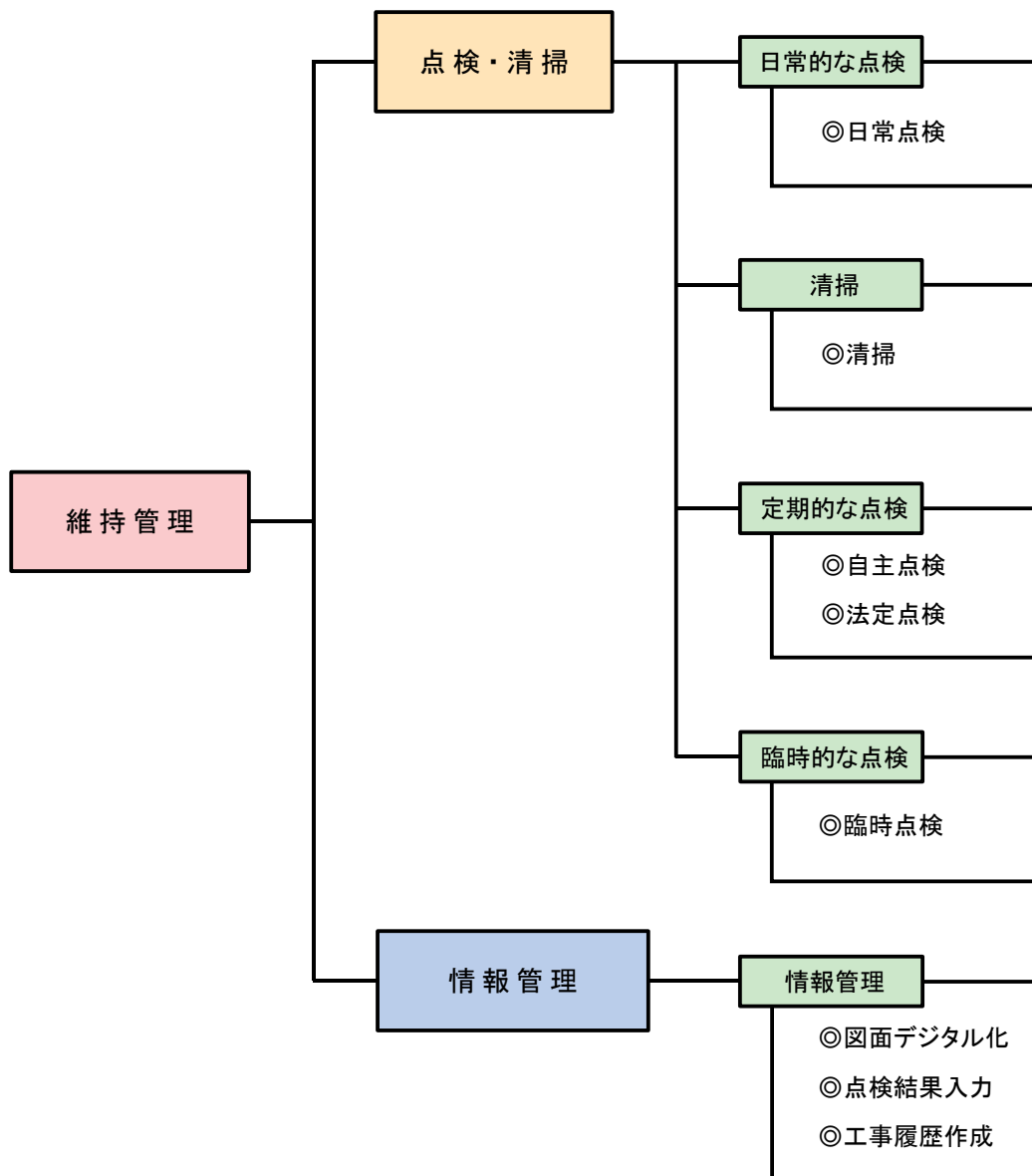
長寿命化を図るためには、定期的に改修工事を行うだけでなく、日常的、定期的に施設の点検や清掃、情報管理を行う必要があります。

日常的、定期的に維持管理を行うことで、建物の劣化状況を詳細に把握でき、より早急に異常に気付くことができるため、施設に応じた維持、改修内容や時期を計画に反映することができます。

◆図表 5-2 維持管理の項目・手法例

維持管理分類	項目	内容	頻度	主な担当者
日常的な点検	日常点検	機器及び設備について、異常の有無、兆候を発見する。	毎日	学校、教育委員会
清掃	清掃	快適な環境を維持しながら建物の仕上材や機器の寿命を延ばすため、塵や汚れを除去する。	各点検に合わせて随時実施	学校、教育委員会、専門業者
定期的な点検	自主点検	機器及び設備の破損、腐食状況を把握し、修理・修繕等の保全計画を立てる。	1週、1ヶ月、半年、1年等周期を設定	学校、教育委員会
	法定点検	自主点検では確認できない箇所や、法的に定められた箇所に関して、専門業者により点検する。		専門業者
臨時的な点検	臨時点検	日常、定期点検以外に行う臨時点検。	故障警報、気象情報等により、随時実施	学校、教育委員会、専門業者
情報管理	図面デジタル化	学校施設等の図面をデジタル化・管理し、点検や現状把握の際に活用する。	随時	教育委員会
	点検結果入力	点検・工事の履歴を作成し、各学校施設等の現状把握や計画への反映に活用する。	各点検に合わせて随時実施	教育委員会
	工事履歴作成		改修、修繕後に実施	教育委員会

◆図表 5-3 維持管理の項目



## 第6章 長寿命化の実施計画

### 1 長寿命化の実施計画（中・長期計画）について

中・長期計画は、学校施設等の実状と課題を踏まえ、長寿命化、改修等における基本方針をもとに今後の対策の方向性や改修・改築の時期、及び事業費を年度計画に落とし込んだものです。

学校施設等の老朽化、児童・生徒数の減少、少子高齢化による厳しい財政状況などにより、現状のまま維持していくことは困難です。

本当に必要か、持続可能かを長期的な視点をもって見直すことにより、児童・生徒及び職員に安全安心で質の高い教育環境を提供するとともに、持続可能な財政運営を目指していきます。

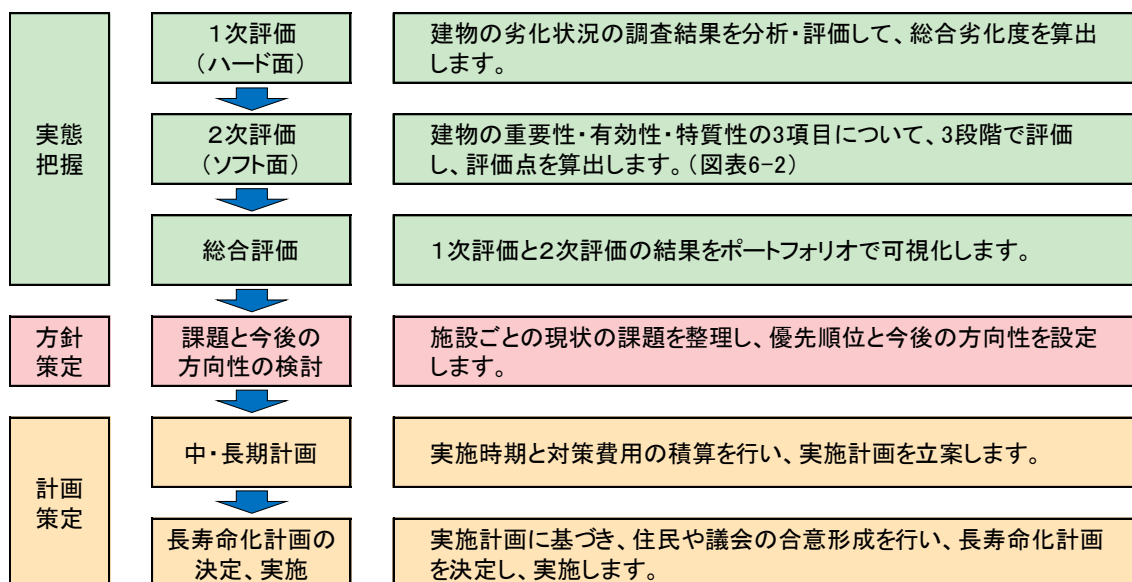
なお、本計画は5年ごとに計画の見直しを図り、時点修正を行います。

### 2 優先順位の考え方

図表6-1のフローにより優先順位を検討しますが、主な視点は次のとおりです。

- ① 安全性……緊急性、耐震性、長寿命化、障害の排除
- ② 機能性……原状回復、防災・防犯、省エネ
- ③ 経済性……ライフサイクルコストの低減
- ④ 代替性……他に代替がないもの
- ⑤ 社会性……社会的ニーズ（洋式トイレ、LED、空調、ユニバーサルデザインなど）

◆図表6-1 優先順位判断と計画策定フロー



◆図表 6-2 2次評価（ソフト面）の評価方法

2次評価は、重要性、有効性、特質性の3つの区分において、各評価項目に該当する項目の数によって、「3」、「2」、「1」の3段階で評価します。

各区分には、重みづけの係数を設定し、評価点と係数を乗じたものを合計して評価点を算出します。

区分	評価	係数	評価項目	該当
重要性	3.該当項目4～5 2.該当項目2～3 1.該当項目0～1	1.00	1 法律等により設置が義務付けられている。	
			2 この施設が存在しなければ、多くの住民の日常生活に支障が出る。	
			3 施策を実現する上で必要不可欠な施設である。	
			4 設置目的の社会的要請が、設置当時と同様にある(ほとんど低下していない)。	
			5 避難所に指定されている等、災害時に必要な施設である。	
有効性	3.該当項目4～5 2.該当項目2～3 1.該当項目0～1	0.75	6 設置目的と現在の利用形態が合致している。	
			7 施設設置当時から、稼働率・利用者数が50%以上減少していない。	
			8 収入が減少傾向にない。(収入のない施設は非該当。)	
			9 投票所等にも幅広く活用可能で汎用性の高い施設。	
			10 公共性が高い(一部の個人・団体が使っているのではない)。	
特質性	3.該当項目4～6 2.該当項目2～3 1.該当項目0～1	0.50	11 建物自体に歴史的、文化的、象徴的価値がある。	
			12 他の建物で代替えができない(他の建物では設置目的が達成できない)。	
			13 近隣の自治体との広域的な連携ができない。	
			14 浸水想定区域・土砂災害警戒区域内には設置されていない。	
			15 施設整備に関し、国県補助金、記載の償還などの制約がある。	
			16 多くの住民から設置継続を要望されている。	

区分の重みづけ係数			
重要性	1.00	有効性	0.75
		特質性	0.50

2次評価点＝総和(各区分の評価点×重みづけの係数)

### 3 学校施設等の個別施設計画表

施設類型別の個別施設計画表の記載内容について説明します。

#### ① 基礎調査表

建物の基本情報と利用状況等の現状、劣化調査結果（1次評価）とソフト面の評価（2次評価）の結果を、施設類型別の建物ごとに整理しています。

#### ② 総合評価

1次評価と2次評価の点数により、ポートフォリオで表したものです。

1次評価点、2次評価点がともに高い建物は、最も優先順位が高いと判断します。

#### ③ 中・長期計画

建物ごとの残存耐用年数、直近の実施計画、適正配置の検討結果、長寿命化する建物は、20年周期の改修時期、費用を推計しています。

改築単価は、総務省 公共施設等更新費用試算ソフト「分類別更新単価」より設定しています。なお、事業費をすでに個別に算出している場合は、その事業費を費用計上します。

費用の推計には、文部科学省提供の「エクセルソフト」を使用し、今後、同規模で更新した場合の必要コストを試算しています。

◆図表 6-3 更新・改修単価表

施設類型別	改築	長寿命化改修	大規模改造
学校教育系施設、子育て支援系施設	33 万円/㎡	19.8 万円/㎡	8.25 万円/㎡

#### ④ 主な課題と今後の方向性

1次評価、2次評価の結果、配置及び現段階で把握している現状の課題を建物ごとに記載しています。

学校施設等整備の基本的方針を踏まえた当該学校施設等の今後の方向性、若しくは適正配置の方向性の検討結果を記載しています。

今後、この計画をもとに住民や議会での合意形成を図りながら実施していくこととなります。具体的な実施計画があるものについては、その旨を記載しています。

なお、この計画は、児童・生徒数の変化、社会経済情勢、国の補助制度などの動向により、柔軟に見直すこととします。

## 4 個別施設計画表

施設ごとに個別施設計画を行います。

(令和 22 (2040) 年度 小・中学校を統合した場合のコスト検討)

### 【学校教育系施設】

- (1) 木島平小学校
- (2) 木島平中学校
- (3) 学校給食センター

### 【子育て支援系施設】

- (4) おひさま保育園

(1) 木島平小学校

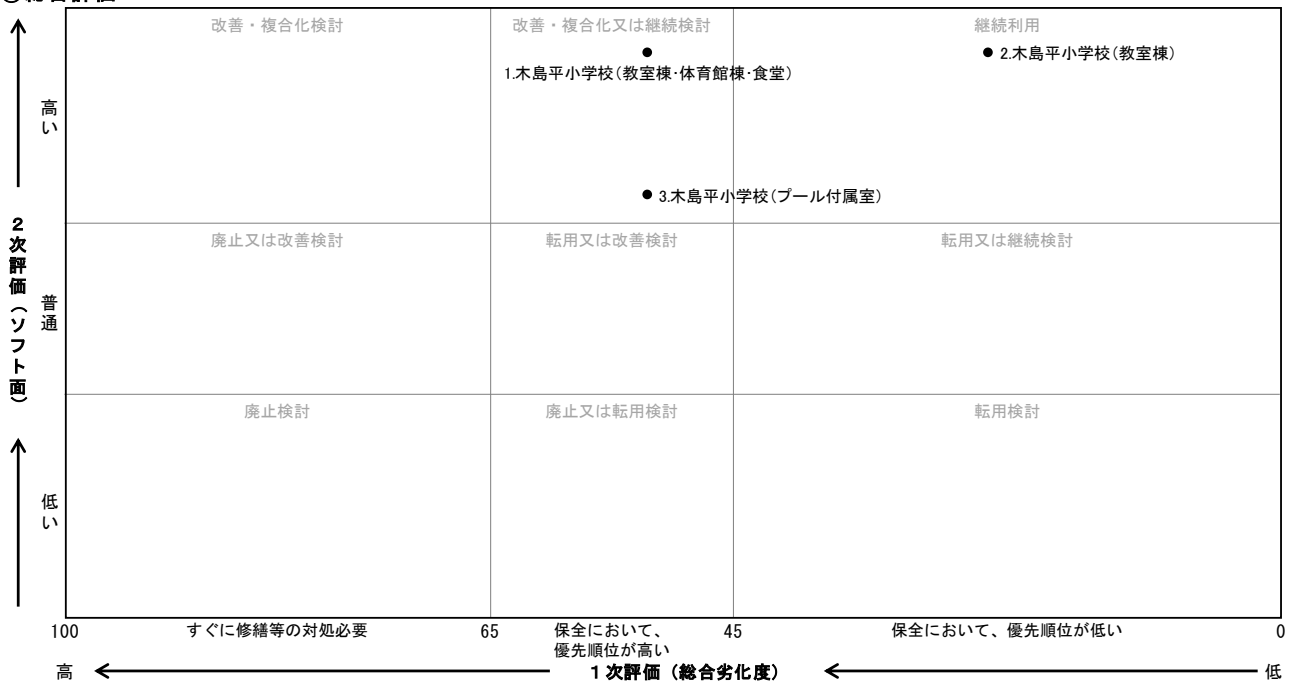
2次評価における重みづけ係数					
重要性	1.00	有効性	0.75	特質性	0.50

①基礎調査表

建物基本情報										現 状										
番号	施設名	建物名	棟番号	所在地	所管課	中分類	構造	延床面積 (㎡)	建築年度	築年数	管理形態	設置目的、機能、役割	避難所指定	ソフト面の評価 (2次評価)				施設整備状況	劣化調査結果 (1次評価)	
														重要性	有効性	特質性	評価		試算上の区分 (※1)	躯体以外の総合劣化度
1	木島平小学校	教室棟・体育館棟・食堂	007-1,008 009	大字住郷3532	子育て支援課	学校	RC	3,548.00	H6 (1994)	26	直営	小学校校舎、屋内運動場、食堂	有	3	3	3	6.75	R元 エアコン設置 H28 教室改修 R元-H29 トイレ改修工事 R元-H28-H27 校舎修繕工事 R元-H27 施設修繕工事	長寿命	52
2	木島平小学校	教室棟	007-2,011	大字住郷3532	子育て支援課	学校	RC	775.00	H21 (2009)	11	直営	小学校校舎	有	3	3	3	6.75	R元 エアコン設置工事	長寿命	24
3	木島平小学校	プール付属室	010	大字住郷3532	子育て支援課	学校	W	156.00	H6 (1994)	26	直営	小学校プール付属室	有	3	2	2	5.50		改築	(52)
A	小学校	プール		大字住郷3532	子育て支援課	学校		(大)25×10 (小)7×5	S42 (1967)	53	直営	小学校プール						H27 プールフェンス修繕工事		

※1 長寿命:長寿命化改修対象 要調査:耐震診断・耐震補強対象 改築:建替え対象

②総合評価





(2) 木島平中学校

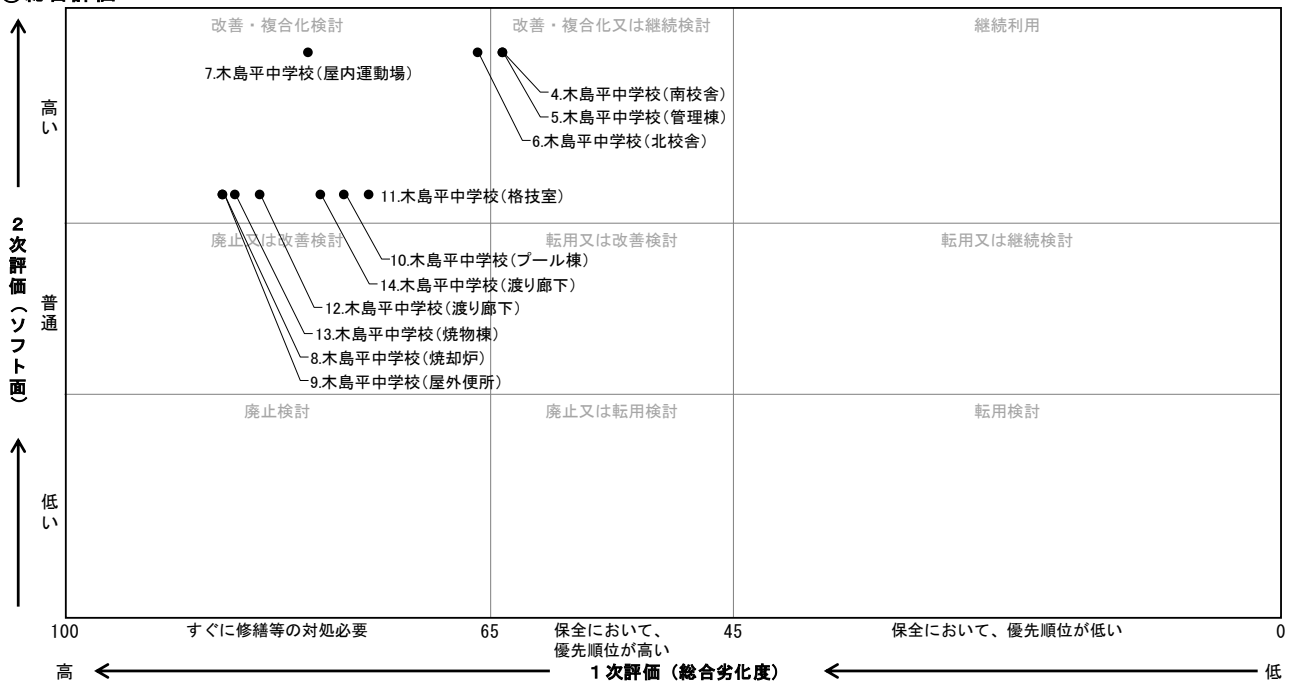
2次評価における重みづけ係数					
重要性	1.00	有効性	0.75	特質性	0.50

①基礎調査表

建物基本情報										現 状										
番号	施設名	建物名	棟番号	所在地	所管課	中分類	構造	延床面積 (㎡)	建築年度	築年数	管理形態	設置目的、機能、役割	避難所指定	ソフト面の評価 (2次評価)				施設整備状況	劣化調査結果 (1次評価)	
														重要性	有効性	特質性	評価		試算上の区分 (※1)	躯体以外の総合劣化度
4	木島平中学校	南校舎	001.0 04.00 5	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	RC	1,641.00	S54 (1979)	41	直営	中学校校舎	有	3	3	3	6.75	R元 エアコン設置、灯油タンク設置 H30 FF暖房機取替工事 H29トイレ改修工事 H10耐震補強 H29-H27施設修繕工事	長寿命	64
5	木島平中学校	管理棟	002	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	RC	689.00	S54 (1979)	41	直営	中学校校舎	有	3	3	3	6.75	R元 エアコン設置工事、FF式暖房機取 替工事、施設修繕工事 H10耐震補強	長寿命	64
6	木島平中学校	北校舎	003	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	RC	1,754.00	S54 (1979)	41	直営	中学校校舎	有	3	3	3	6.75	R元 エアコン設置工事 R元-H30トイレ改修工事 H30施設修繕 H10耐震補強 H29-H28 FF式暖房機取替工事	長寿命	66
7	木島平中学校	屋内運動場	006	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	S	1,242.00	S55 (1980)	40	直営	中学校屋内運動場	有	3	3	3	6.75	R元 トイレ改修工事 H7耐震診断	長寿命	80
8	木島平中学校	焼却炉	007	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	RC	9.00	S54 (1979)	41	直営	中学校焼却炉	有	3	2	2	5.50		要調査	(87)
9	木島平中学校	屋外便所	008	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	RC	38.00	S54 (1979)	41	直営	中学校屋外便所	有	3	2	2	5.50		要調査	(87)
10	木島平中学校	プール棟	009	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	S	172.00	S56 (1981)	39	直営	中学校プール棟	有	3	2	2	5.50		要調査	77
11	木島平中学校	格技室	010	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	S	355.00	S57 (1982)	38	直営	中学校格技室	有	3	2	2	5.50		長寿命	75
12	木島平中学校	渡り廊下	011	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	RC	61.00	S57 (1982)	38	直営	中学校渡り廊下	有	3	2	2	5.50		長寿命	(84)
13	木島平中学校	焼物棟	012	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	S	17.00	S55 (1980)	40	直営	中学校焼き物棟	有	3	2	2	5.50		要調査	(86)
14	木島平中学校	渡り廊下	013	大字往郷 839	子育て 支援課	学校	S	36.00	S62 (1987)	33	直営	中学校渡り廊下	有	3	2	2	5.50		長寿命	(79)
B	中学校	プール		大字往郷 839	子育て 支援課	学校		25×13	S56 (1981)	39	直営	中学校プール								

※1 長寿命:長寿命化改修対象 要調査:耐震診断・耐震補強対象 改築:建替え対象

②総合評価



残存使用年数  
 ▲ 大規模改造 (20年目)  
 ● 長寿命化改修 (40年目)  
 ○ 大規模改造 (60年目)  
 ◇ 改築  
 ■ 部位修繕 その他

③中・長期計画

(百万円)

R3-R12										R13-R22										R23-R32										R33-R42										番号										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40											
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0											
■	屋根、外壁等部位修繕 総額74百万								◇	◇	小学校との統合校建設										6																													
21									271	271																																								
■	屋根、外壁等部位修繕 総額74百万								◇	◇	小学校との統合校建設										7																													
9									113.5	113.5																																								
■	屋根、外壁等部位修繕 総額74百万								◇	◇	小学校との統合校建設										8																													
22									200.5	200.5																																								
■	屋根、外壁等部位修繕 総額74百万								◇	◇	小学校との統合校建設										9																													
16									205	205																																								
																																								◇	◇	10								
																																								3	13									
																																										11								
■	屋根、外壁等部位修繕 総額74百万								◇	◇	小学校との統合校建設										12																													
2									28.5	28.5																																								
■	屋根、外壁等部位修繕 総額74百万								◇	◇	耐用年数に伴う改築										13																													
4									58.5	58.5																																								
																																							◇	◇	14									
																																							6	6										
																																									B									
																																							◇	◇										
																																									合計									
																																							74	1,051.9		1,054.8	16							

④主な課題と今後の方向性

番号	施設名	建物名	主な課題	対策の方向性	今後の方向性	
					機能	建物
4	木島平中学校	南校舎	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	統合	改築
5	木島平中学校	管理棟	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	統合	改築
6	木島平中学校	北校舎	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	統合	改築
7	木島平中学校	屋内運動場	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	統合	改築
8	木島平中学校	焼却炉	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	継続検討	継続検討
9	木島平中学校	屋外便所	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	継続検討	継続検討
10	木島平中学校	プール棟	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	統合	改築
11	木島平中学校	格技室	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	継続	改築
12	木島平中学校	渡り廊下	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	統合	改築
13	木島平中学校	焼物棟	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	継続検討	継続検討
14	木島平中学校	渡り廊下	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	統合	改築
B	中学校	プール	経年劣化の進行	計画的な維持管理を行う	統合	改築







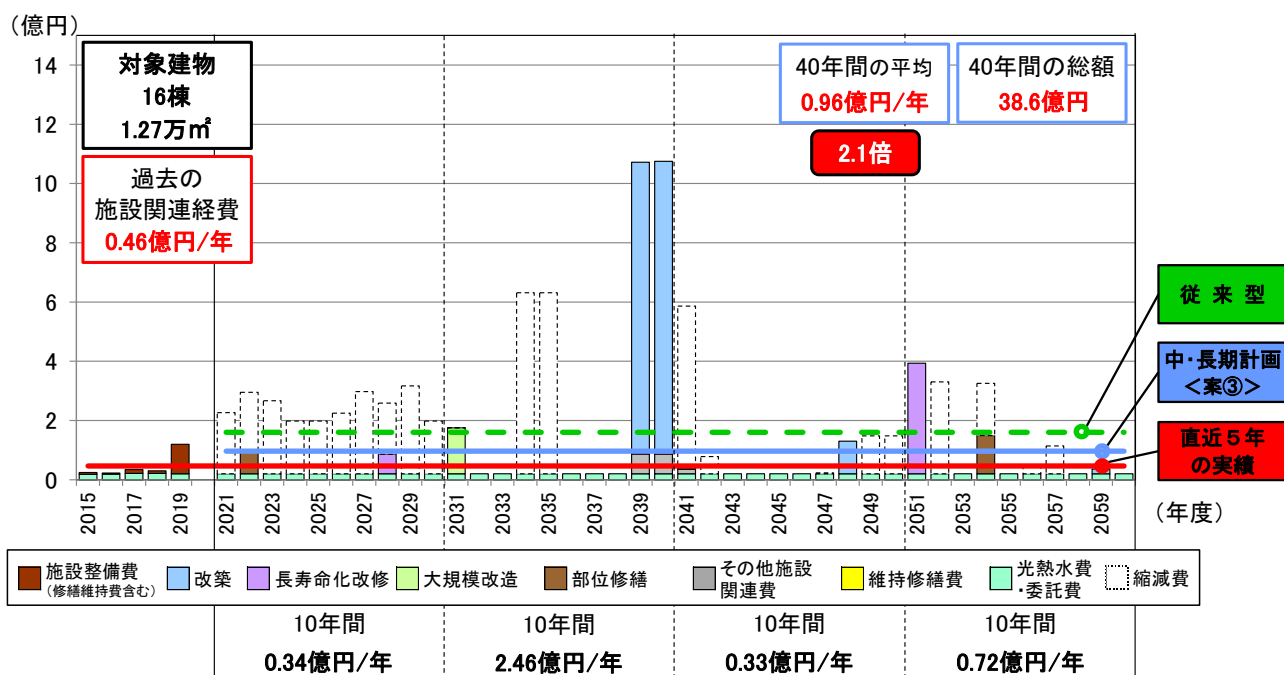


## 5 今後の維持・更新コスト（中・長期計画）

中・長期計画における、今後 40 年間の維持・更新コストは総額約 38.6 億円（0.96 億円/年）となり、従来の改築中心の場合（図表 3-11）の 64.2 億円（1.61 億円/年）より総額 25.6 億円（0.65 億円/年）、約 39.9%の縮減となります。

また、長寿命化型での試算（図表 4-3）総額 62.0 億円（1.55 億円/年）より総額 23.4 億円（0.59 億円/年）約 37.7%の縮減となりました。

◆図表 6-6 今後の維持・更新コスト（中・長期計画）



コスト算出条件(中・長期計画)

- ・物価変動率は考慮しない。
- 基準年度:令和 2(2020)年度(試算期間:基準年の翌年度から 40 年間)
- 改 築:更新周期 W造:40年 S造:60年 RC造:80年
- 大規模改造:実施年数 20年周期
- 単 価 設 定:図表 6-3 更新・改修単価表
- プ ー ル:更新周期 改築 50年 長寿命化改修 25年 大規模改修 12年
- 改築単価 330,000 円/㎡(他自治体プール参考)
- 「その他施設関連費」に計上
- 光熱水費・委託費:過去 5 年間の施設関連経費の平均

## 第7章 長寿命化計画の継続的運用

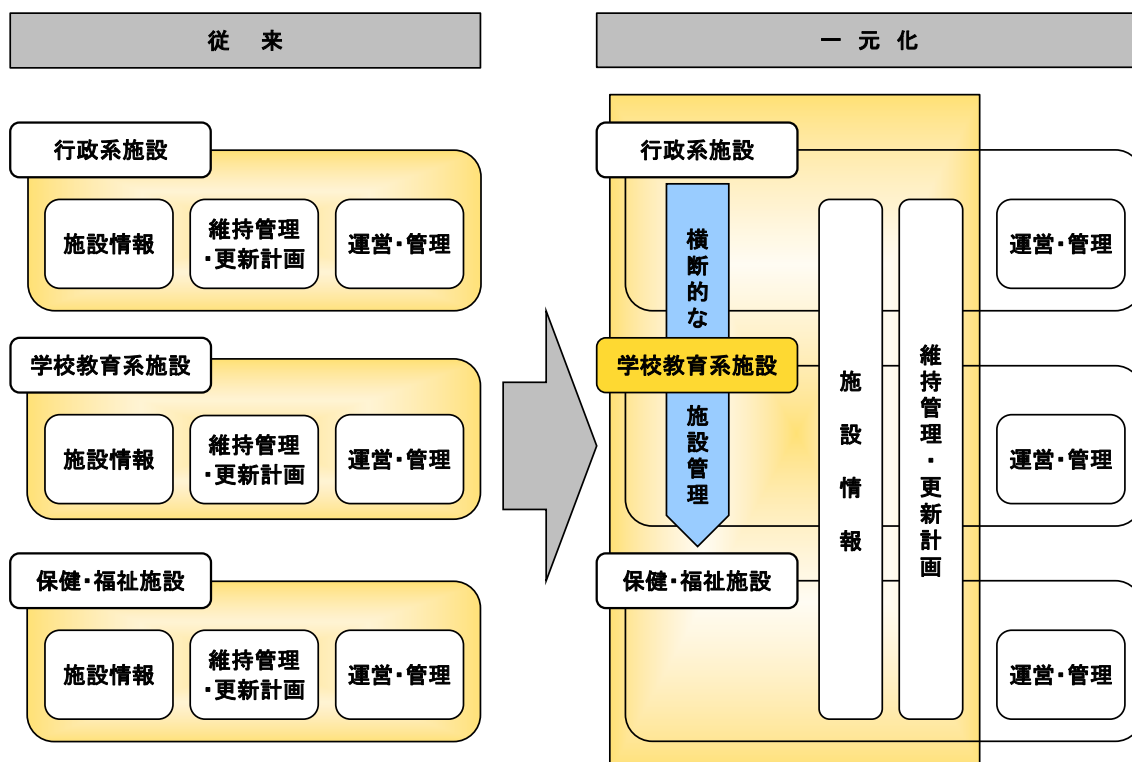
### 1 情報基盤の整備と活用

学校施設等の点検・診断の結果は、今後の維持管理・更新の基礎資料となる重要な情報であるため、記録・保存する必要があります。また、点検・診断後に修繕等を行った場合の修繕履歴についても、同様に記録することで、効率的な維持管理を行うことが可能となります。

このため、施設の基本情報、改修・補修等の工事履歴や劣化情報等の一元管理を行えるデータベースを構築していきます。

また、固定資産台帳や複式簿記による財務書類との連携方法についても検討します。

◆図表 7-1 施設管理の一元化（イメージ）



## 2 財源の確保

学校施設等の維持管理、改修、改築等は事業費が高額となるため、今後、限られた財源の中で実効性を高めるために、学校施設等の運営面・活用面などの見直しを行うなど、総合的に検討します。

また、国の動向にも注視し、国庫補助事業や有利な地方債を有効的に活用して実施します。

## 3 推進体制等の整備

学校施設等の所管課である教育委員会を中心に、本計画を含む学校施設マネジメントを行っていきます。

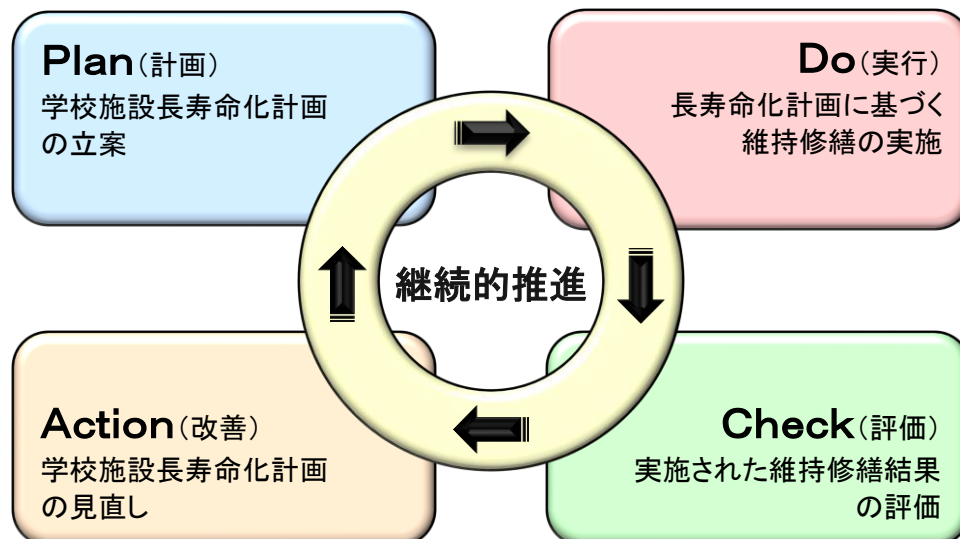
また、日常の施設管理の質を向上するため、専門業者による定期的な点検や各種報告書を活用して不具合箇所の早期把握と対応を図ります。

## 4 フォローアップの実施方針

本計画は上位計画である総合管理計画の更新等に合わせ、本計画の進捗状況等についてPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを活用し、フォローアップを行います。

なお、事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映しながら、定期的な見直しを実施するとともに、国の制度変更や社会経済情勢の変化など、前提となる条件が大きく変わった時点で、適宜必要な見直しを行うものとします。

◆図表 7-2 PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクル（イメージ）



木島平村学校施設等長寿命化計画

令和 3(2021)年 8 月

木島平村教育委員会

〒389-2392 長野県下高井郡木島平村大字往郷 914 番地 6

TEL 0269-82-3111(代)

北信州  
木島平村